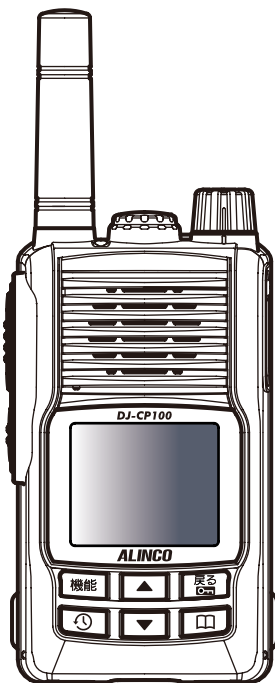


IP 無線機（総務省技術基準適合品）

LTE 用陸上移動局

取扱説明書

DJ-CP100



- ・ 本機の機能を十分に発揮させ、安全にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。
- ・ 本機は免許・資格不要の IP 無線機です。
- ・ 本機は他社製品との通信互換性はありません。

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

はじめに

取扱説明書の構成について

本機の取扱説明書は、本機に同梱の「ご使用になる前に（簡易取扱説明書）」と本書（PDF ファイル）で構成されています。

「ご使用になる前に（簡易取扱説明書）」

本機の基本的な操作方法の説明のほか、安全上のご注意と基本的な取り扱いについて記載しています。必ずお読みください。

取扱説明書（本書）

各種機能の詳細や、使用方法について説明しています。

印刷物は無く、PDF ファイルとして配布されます。

機能と特徴

- ◎ 本機は、IP 回線を使用して音声通話やテキストメッセージ通信ができるトランシーバーです。
au 網と docomo 網を利用しており、カバーエリア内であれば全国で通信を行うことができます。
- ◎ IP64/65/66/67 相当の防水で、雨や雪、水まわりの仕事でも安心して使えます。
- ◎ 本機は、免許・資格不要です。
- ◎ 弊社のスマートフォン向け無線アプリ Air-InCom. と通話できます。
※通話にはご契約が必要です。販売店にご相談ください。
- ◎ 本機はデジタル簡易無線機や特定小電力無線機と異なり、契約者以外の通話は聴こえず、混信が起きません。
- ◎ どの通話モードでも通話を受信中に PTT キーを押せば同時通話になる設定ができます。
- ◎ キャリアセンスやタイムアウトなど、無線機のような電波法上の制限がありません。

登録商標 / 著作権について

アルインコ株式会社、ALINCO・アルインコロゴ、はアルインコ株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

なお、本文中では TM、® などのマークを省略しています。本書の内容の一部、または全部を無断で複写 / 転用することは禁じられています。

取り扱い上のご注意

本機をご使用になるうえで、特に注意していただきたい事項を記載しています。必ずお読みください。正しく使わないと製品保証の対象外になったり、トラブルや故障の原因になったりすることがあります。 **本体に同梱の取扱説明書の注意事項も必ずお読みください。**

- ◎ 本機を使用できるのは、日本国内のみです。回線ネットワークが異なるため海外ではお使いになれません。This product is usable only in Japan.
- ◎ 本機の通信部はきわめて携帯電話に近いものです。携帯電話の使用が禁止されている場所では絶対に電源を入れないでください。

はじめに

- ◎ 電気・電子機器の近くで使用すると電波障害を受けたり、与えたりすることがあります。テレビ、インターホン、AV 機器、パソコン、電話機などが代表的な製品です。なるべく離してお使いください。
- ◎ 付属品、および弊社指定のオプション品以外のものを接続して使用しないでください。故障や動作不良の原因になることがあります。指定以外の製品をお使いになったの不具合は保証期間に関わらず、製品保証の対象外です。他社製品を当社製品に使えるようにする改造サービスは有償、無償にかかわらず行っていません。
- ◎ この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用しないでください。事前の個別契約がない限り、誤動作、不具合や損害が生じてても一切の責任は負いかねます。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）を絶対に使用しないでください。ケースが損傷したり、文字が変質したり、塗装がはがれたりします。また機器内部に洗剤などが浸透すると故障の原因になります。スプレータイプのクリーナーはお使いにならないでください。
- ◎ 本体と充電器の接触端子はときどき乾いた綿棒で軽く拭って清掃してください。ほこりや脂汚れは充電や動作の不良原因になります。
- ◎ 航空機内や病院など、携帯電話の使用を禁止されている区域では電源を切ってください。電子機器や医療機器に悪影響を与える原因になります。
- ◎ ペースメーカー、補聴器など医療機器で、携帯電話の使用を制限されるものをお使いの方は本機の使用を控えてください。
- ◎ クレジットカード、キャッシュカードなど磁気カード類やフラッシュメモリー類を無線機の近くに置かないでください。データが消える可能性があります。
- ◎ 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は一切、絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術基準適合から外れたり、盗品や違法無線機とみなされたりします。また製品保証の対象から外れるため、弊社のアフターサービスも受けられなくなります。
- ◎ 寒い屋外から急に温かい室内に移動したときや、湿度が非常に高い場所で使うと内部に水滴が付くことがあります（結露）。濡れた状態で電源を入れると故障の原因となるのでご注意ください。
- ◎ 電池類は高温や低温環境では一時的に使用できる時間が短くなり、長時間その状態が続くと電池の劣化が進みます。ケースに入れるなどして、常温に近づけてお使いください。
- ◎ -10℃～+60℃以外の環境では使用しないでください。記載の温度範囲外で使うと動作不良や故障の原因となります。
- ◎ 無線機を長期間使用しないときは必ず電源を切ってください。切り忘れると電池を消費します。そのまま長期間放置していると電池の液漏れの原因になります。
- ◎ SIM カードの交換は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

はじめに

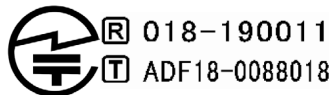
- ◎ サービスエリア内でも電波の届かない場所（トンネル・地下など）では通信できません。また電波状態の悪い場所では通信できなかったり、通信が途切れることがあったりしますので、あらかじめご了承ください。
- ◎ 本機は携帯電話回線を使用しているため、災害等で携帯電話網が使えない状態の時には通信できません。
- ◎ 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎ 本体背面及び上面に貼られている黒いシールは絶対に剥がさないでください。また、このシールを覆うように別のシールを貼ったりしないでください。浸水や音質不良など故障の原因になります。

運転中の無線機の使用について

- ◎ 運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視（表示を見続ける行為）をすることは法律で禁じられています。
- ◎ 無線機を操作、または表示部を注視するときは、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。違反すると運転中の携帯電話の使用と同様、罰せられます。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。一部の自治体では運転中にイヤホンやヘッドホンを使用することが規制されています。
- ◎ 無線機を体に付けた状態で運転しないでください。イヤホンマイクやアンテナがシートベルトにからみついたり、エアバッグなどの安全装置が作動した時の妨害になったりします。

電波法上のご注意

- ◎ 本機は電波法に基づいて、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた製品です。本機には下の数字や記号が印字されています。分解しないでください。改造して使うと罰せられます。



- ◎ 本機に貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
 - 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法機器とみなされ、行政処分の対象となることがあります。
 - ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられている場合は、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れてきた場合はお買い上げいただいた販売店が弊社サービスセンターにご相談ください。

- ラベル類が意図的に手を加えられていると判断した場合、修理をお断りすることがございます。不法無線局開設の幫助に該当するためですのでご了承ください。
- ◎ 使用できるのは、日本国内の au 網または docomo 網のカバーエリア内に限られます。
- ◎ 心臓ペースメーカを使用している人の近くで、本機を使用しないでください。電磁妨害により機器が誤作動すると、人命にかかわります。

外郭保護について

本機は設計段階で外郭保護等級 IP64/65/66/67 規格の耐塵防水試験に合格しており、アンテナ、バッテリーパック、イヤホン / マイク端子と [USB] コネクタの保護カバーを正しく装着するなど指定の条件を満たしていれば、水回りやホコリっぽい環境の中でお使いになっても故障しにくい構造になっています。ただし防塵、防水試験には条件があり、完全な防水を保証するものではありません。

下記のような使い方をすると外郭保護はできず、製品保証の対象外となります。また、本体、バッテリーパック、アンテナは単独では防水になりません。必ずそれぞれを正しく接続した状態でお使いください。

- ◎ 真水以外の液体（海水、洗剤、溶剤等）や砂、泥等の汚れが無線機に付着したまま放置したとき。
- ◎ 雨の中、濡れたり砂や粉塵などで汚れた手でバッテリーカバーやアンテナ、[マイク / イヤホン] ジャックや [USB] コネクタの保護カバーを取り付けたり、外したりしたとき。
- ◎ 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体に劣化が生じたとき。
- ◎ 高い水圧、風圧、湯を掛けたとき。
- ◎ 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき。
- ◎ -10℃～+60℃以外の環境で使用したとき。
- ◎ 工場内、鉱泉の噴出場所など薬品を含んだ蒸気が発散しているところや、薬品に触れる恐れがあるところに放置したとき。
- ◎ 本機を分解・改造したとき。
- ◎ 無線機本体とバッテリーの隙間やアンテナ、[マイク / イヤホン] ジャックと [USB] コネクタの保護カバーの隙間に微細なゴミ（糸くず、毛髪、砂など）が挟まっているとき。
- ◎ 本体背面及び上面に貼られている黒いシールを剥がしたとき。

保護に使われているカバーやシールドの素材は経年劣化のため変質し、保護性能が低下します。保護が重要な場合は有償でメンテナンスを承ります。販売店または弊社サービスセンターにご相談ください。

耐久性能は米軍規格 MIL-810 の振動と衝撃規格で確認済みです。衝撃は落下ではなく、急ブレーキや急発進時にかかる G（重力加速度）を想定した規格です。

外郭保護等級について

機器内への固形物、水の侵入に対する保護性能を表す規格です。

IP に続けて 1 つ目の数字は防塵性能、2 つ目の数字は防水性能を示します。どちらか一方だけの性能を表示する場合、表示しない性能に該当する数字の部分を「X」で表記します。

◎ IP6X は、ペーパーパウダー状の粉を 1 立方メートル当たり 2kg の濃度で浮遊させた試験機内に 8 時間放置して、無線機内部に粉の侵入がないことを確かめる規格です。

◎ IPX4 は、全方向からの水の飛沫によっても有害な影響を受けない防沫性能を検証するため、毎分 10 リットルの水を全方向から最低 5 分間散水して耐水を確認する規格です。

◎ IPX5 は、全方向からの水の直接噴流によっても有害な影響を受けない防噴流性能を検証するため、毎分 12.5 リットルの噴流を全方向から最低 3 分間注水して耐水を確認する規格です。

◎ IPX6 は、全方向からの強い水の直接噴流によっても有害な影響を受けない防噴流性能を検証するため、毎分 100 リットルの噴流を全方向から最低 3 分間注水して耐水を確認する規格です。

◎ IPX7 は、定められた水圧・時間で水中に沈めたとき、有害な量の水が侵入がない防浸性能を検証するため、電源を切った状態で深さ 0.15 ～ 1m の水中に 30 分間沈めて防浸を確認する規格です。

本機の使用温度範囲について

本機の使用可能温度範囲は -10 ～ +60℃ ですが、低温時、高温時は電池の劣化を防ぐためポケットに入れるなど常温に近づけてください。

充電可能温度範囲は 0 ～ +45℃ です。これ以外の温度では充電できないことがあります。

リチウムイオンバッテリーは直射日光やヒーター等の熱風に当たるなどして高温になると発火の可能性があります。冬季でも直射日光が当たると危険な温度になりますので、窓辺などに置かないでください。また、高温の状態で充電しないでください。

電磁ノイズについて

インバーター回路を内蔵している電子機器およびハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に動作できないことがあります。

◎ インバーターを搭載する代表的な機器

- LED 照明機器
- 電磁調理器
- 給湯器
- 自動車の電子機器
- 太陽光発電装置

医療機器近くでの取り扱いについて

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医療機器の近くで本機を使用する場合は、電波により医療機器の作動に影響を与える恐れがあります。下記のことに注意してご使用ください。

- ◎ 本機の通信部はきわめて携帯電話に近いものです。携帯電話の使用が禁止されている場所では絶対に電源を入れないでください。
- ◎ 植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医療機器を装着されている場合は、本機を医療機器から 15cm 以上離して携行および使用してください。
- ◎ 医療機関内における本機の使用・持ち込みについては、各医療機関の指示に従ってください。電波により医療機器の作動に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ◎ 身動きが自由に取れないなど、周囲の方と 15cm 以上の距離が確保できない恐れがある場合は、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医療機器を装着している方がいる可能性がありますので、本機を使用しないでください。
- ◎ 自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医療機器を使用される場合は、電波による影響について個別に医療機器メーカーなどにご確認ください。電波により機器の作動に影響を与える恐れがあります。

本機の比吸収率 (SAR) について

本機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。この技術基準^{*}は、人体の近くで使用する携帯型端末などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率 (SAR : Specific Absorption Rate) について、これが 2W/kg の許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や体の大きさに関係なく十分に安全な値として設定されており、世界保健機関 (WHO) と協力関係にある国際非電離放射線保護委員会 (ICNIRP) が示した国際的なガイドラインと同じ値になっています。

本機の値は 0.887W/kg です。この値は国が定めた方法に従い、携帯型端末の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によって SAR に多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満たしています。また、本機は基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるように設計されているため、実際に通話している状態では、通常 SAR はより小さい値となります。

はじめに

SAR について、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<https://www.tele.soumu.go.jp/j/ele/index.htm>

社団法人電波産業会のホームページ

<https://www.arib-emf.org/index.html>

※技術基準については電波法関連省令（無線設備規則第 14 条の 2）で規定されています。

通話について

- 本機の通話は電話のように同時に話すことが基本です。PTT（Push To Talk）キーでトランシーバーのような交互の話し方もできますが、同時通話を区切って話しているようなもので、トランシーバーの交互通話モードとは原理的に異なります。また、通話中は常に電波が出ているので送信、受信状態に関わらず電池を消費します。
- 本機の通信セキュリティはスマートフォンと同等です。市販の受信機などでは携帯電話や本機の通話を傍受することはできません。

通話品質について

- 本機は LTE・W-CDMA 方式に対応しています。
- 本機は無線を利用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい所であってもご使用になれない場合があります。電波が強く電波強度アイコンが 4 本表示されている状態で、移動せずに使用している場合でも通話が切れることがありますので、ご了承ください。
- 本機は、音声を変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪い所へ移動するなど、送信されてきたデジタル信号を正確に復元できない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。

音声の遅延について

本機の通話遅延は最大 0.5 秒ですが、インターネットを経由するため、ネットワークの距離と回線状態によっては遅延が大きくなる場合があります。

目次

はじめに	2
取扱説明書の構成について	2
機能と特徴	2
登録商標 / 著作権について	2
取り扱い上のご注意	2
運転中の無線機の使用について	4
電波法上のご注意	4
外郭保護について	5
外郭保護等級について	6
本機の使用温度範囲について	6
電磁ノイズについて	6
医療機器近くでの取り扱いについて	7
本機の比吸収率 (SAR) について	7
通話について	8
音声の遅延について	8
1. お使いになる前に	14
付属品の確認	14
付属品の取り付け方	14
アンテナの取り付け方	14
ベルトクリップについて	15
バッテリーパックの取り付け / 取り外し	15
イヤホン、スピーカーマイク等の接続方法	16
イヤホン、ヘッドセット等使用時の注意点	16
スピーカーマイク等装着中の注意点	16
電池類の持ち運びについて	17
バッテリーパックの使用上の注意	18
リチウムイオンバッテリーパックの充電方法	19
バッテリーパックに関する重要な説明	21
ファームウェアの更新について	22
2. 本体の名称と動作	23
本体	23
ディスプレイの表示例 (待ち受け中 / 送信中)	24
ディスプレイの表示例 (受信中)	25
ディスプレイの表示例 (会議室入室中)	25
3. 基本操作	26
電源を入れる	26
音量を調整する	27
交信する	27
1. 通話モードについて	27
2. 通話設定について	28

目次

3. 送信する	28
4. 応答する	31
5. 交信を終える	32
電源を切る	32
4. 応用操作	33
アドレス帳の使いかた	33
通話モードの種類と通話相手の選択	33
全員	33
グループ	34
個別	35
会議室	37
メッセージを送る	39
履歴の確認と消去	41
通話履歴の確認	41
通話履歴の録音再生	42
メッセージ履歴の確認	43
メッセージ履歴からメッセージを返信または再送する	44
履歴の消去	44
5. 便利な機能	45
キーロック	45
通話モードをワンタッチで切り替える	46
通話相手をワンタッチで切り替える	46
通話の終了（切断と退出）	47
自動切断機能	48
自動参加機能	48
6. 便利な機能（セットモード操作）	49
録音動作設定	49
音声ガイダンス	49
短縮キー動作	50
緊急呼出	51
緊急速報機能	55
VOX 動作	56
通話設定	57
7. セットモード	59
セットモード一覧	60
セットモード操作方法	62
“簡易”と“標準”の切替方法	63
セットモード項目説明	64

目次

メッセージ送信	64
緊急呼出	64
機器設定	64
送信設定	64
内部マイク感度	64
外部マイク感度	64
緊急時マイク感度	64
PTTホールド	64
コールバック	65
VOX 動作設定	65
VOX 動作レベル	65
ノイズキャンセル	65
エコーキャンセル	65
連続送信時間制限	66
ダイレクトコール	67
送信禁止	78
個別呼出切替	78
グループ呼出切替	78
全員呼出切替	78
受信設定	69
録音動作設定	69
メッセージ受信禁止	69
通話設定	69
外部接続なし	69
外部接続あり	69
内部軽減音量レベル	70
外部軽減音量レベル	70
通知 / 警告設定	70
ビープ音量	70
ベル機能	70
ベルの音色	71
音声ガイダンス	71
音声ガイド音量	71
減電池警告	71
イヤホン断線検知	72
接続通知	72
失敗通知	72
PTTビープ	73
エンドピー	73
通信圏外通知音	73

目次

各種動作設定	74
短縮キー動作	74
外部音量設定	74
音量の調整方法	74
固定音量レベル	75
最大音量レベル	75
最小音量レベル	75
緊急動作設定	75
警報音のみ	75
警報音 + 発報	75
発報のみ	76
音声送信	76
警報音量（内部）	76
警報音量（外部）	76
緊急速報機能	77
システム設定	77
バックライトタイマー	77
コントラスト	77
オートパワーオフ	78
Update USB	78
動作 SIM	78
Log 送信	79
リセット	79
設定保存	79
機器情報	79
8. 保守・参考	80
故障とお考えになる前に	80
メンテナンス	82
アフターサービスについて	82
9. オプション一覧	84

目次

10. 定格	86
一般仕様	86
11. 付録	87
設定初期値一覧表	87

1. お使いになる前に

付属品の確認

本機には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

- ☐ 本体
- ☐ バッテリーパック EBP-198(7.2V 2200mAh)
- ☐ シングル充電スタンド EDC-326R
- ☐ AC アダプター EDC-215
- ☐ ベルトクリップ（装着済み） EBC-46
- ☐ アンテナ EA-297
- ☐ ご使用になる前に（簡易取扱説明書）
- ☐ 保証書

注意 保証書は購入店名、購入日の記入（または専用ステッカー貼付けなど）と、記載の製造番号をお確かめの上、大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類と一緒に保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。

付属品の取り付け方

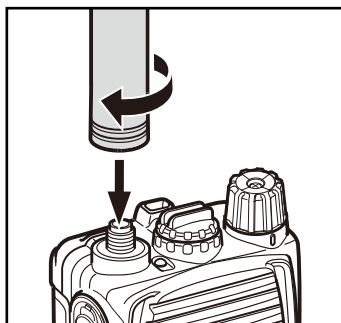
■ アンテナの取り付け方

アンテナの根元を持って時計方向（右）に回転が止まるまで回します。

外すときは反時計方向（左）に回します。

ゆるみが無いか、時々確認してください。

アンテナは必ず接続してお使いください。アンテナ無しでは通話できません。



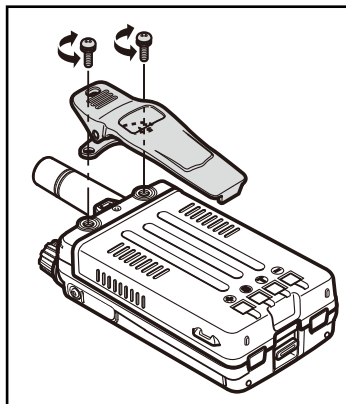
本機はアンテナを含めて技術基準適合証明を受けているため、付属のアンテナ以外のご使用に耐えられません。アンテナを変えても通話エリアが広がることはありません。

1. お使いになる前に

■ ベルトクリップについて

ベルトクリップは取付けた状態で梱包されています。ベルトクリップを外すときはドライバーでネジを反時計方向に回してください。
(+ ドライバー No2 が必要です。)

ベルトクリップを使って装着する際は、ベルトクリップで体の横、または背中中に固定してください。イヤホンマイクは引っかからないようになるべく背中を通して、余分な長さを束ねてください。かがんだときにプラグやアンテナにストレスが掛からないようにご注意ください。



定期的、ネジにゆるみがないか点検してください。ベルトクリップは消耗品です。スペア部品として販売していますので販売店にご相談ください。

標準付属品以外のネジを使うと無線機本体が破損します。絶対に規格以外のネジは使わないでください。(ネジ規格: M3 × 6mm)

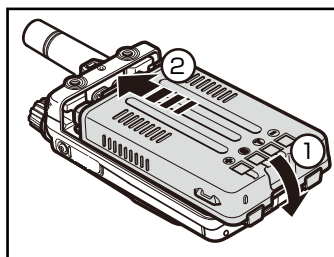
ベルトクリップ EBC-46

(ベルトクリップ 1 個、ネジ 2 本)

■ バッテリーパックの取り付け / 取り外し

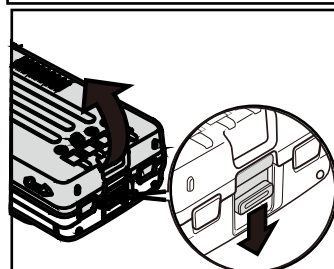
● バッテリーパックの取付け方

バッテリーパックを本体のツメに合わせ、バッテリーパックを矢印の方向に押し込んでからしっかりと固定します。ロックレバーが固定されているか確認します。



● バッテリーパックの取外し方

本体のロックレバーを押してバッテリーパックをスライドさせて取り外します。



バッテリーパックをスライドさせる際は、指やツメなどを傷めないよう、注意してください。

1. お使いになる前に

■ イヤホン、スピーカーマイク等の接続方法

本機の電源を切り、イヤホン、スピーカーマイク等を本機上部の SP/MIC 端子にしっかり差し込んだ後、時計方向（右）に回転が止まるまで回します。

※取り外す場合も本機の電源を切ってから行ってください。

※使用しないときはキャップをしっかり閉めてください。外したキャップは必ず保存してください。キャップをしないと防塵防水にはなりません。

■ イヤホン、ヘッドセット等使用時の注意点

イヤホンやヘッドセットを使うときは、予めボリュームを下げておき、少しずつ音量を上げて適切な音になるよう調整してください。大きな音で聴き続けていると聴力障害の原因となります。聴力に異常を感じたときは、すぐに使用を止めて医師にご相談ください。

■ スピーカーマイク等装着中の注意点

スピーカーマイク等（EMS-62 や EMS-514、EMS-71）を装着中は以下の機能をご使用になれません。設定を初期値のオフから変更していると正しく動作しないため、オフに戻してお使いください。なお、イヤホンマイク装着中は以下の制約は生じません。

- 緊急呼出「音声送信」(P.51)

※音声送信以外はご使用になれます。

- VOX 動作 (P.56, 65)
- PTT ホールド (P.64)
- コールバック (P.65)

※スピーカーマイク等を装着中はスピーカーマイク側の PTT キーを押して送信することが基本ですが、本体側（本機側面）の PTT キー、もしくは短縮キー（ダイレクトコール設定時）を押して送信することもできます。この場合は、本体マイクに向けてお話しください。スピーカーマイク側のマイクは無効になるため相手に声が伝わりません。

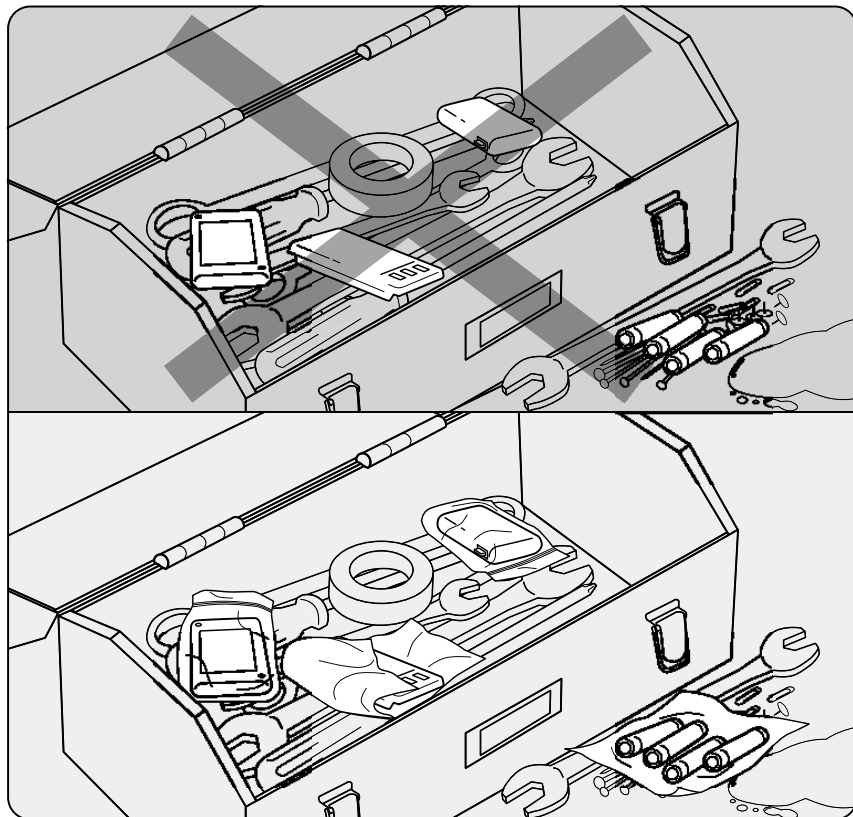
1. お使いになる前に

■ 電池類の持ち運びについて

乾電池やバッテリーパックを持ち運ぶときは、以下のことにご注意ください。

端子をショートさせると大電流が流れて火災、火傷の原因になります。

1.5V の単三乾電池ですら数分程度で、90℃以上の温度になるので充分な注意が必要です。



- 持ち運ぶときは乾いた袋や布で個別に包装
- 金属の上に直接置かない

1. お使いになる前に

■ バッテリーパックの使用上の注意

次の注意事項を守らないと発煙や発火の原因となります。

- 季節、温度に関わらずバッテリーパックを車内や窓際など直射日光が当たる場所やヒーター類の近くなど高温となる場所には絶対に放置しないでください。
- 指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、直ちに充電を中止してください。
- バッテリーパックは消耗品です。充電回数は 300 回～ 500 回が目安です。充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱している、膨れたなど異常があると思われるときは、すぐにバッテリーパックを交換してください。
- 劣化したバッテリーパックは使用しないでください。無線機の性能を十分に活用するためにも、3 年を目安、長くても 5 年以内に交換してください。
- 固い床に落としたり、壁にぶつかるなどでバッテリーパックに強い衝撃を与えたときは新品に交換してください。電池内部に小さな傷ができると、それが発煙や発火の原因になります。

※お願い

本書をお読みになる機会の無い方が本機を使用されるときは、本機の管理者はこの注意書きの内容を必ず使用者にお伝えください。

このページをコピーして、充電器の近くに掲出していただくと効果的です。

この内容は、他の家電用リチウムイオンバッテリーとも共通です。

- 注意**
- バッテリーパックは出荷時には十分に充電されておりません。お買い上げ後にフル充電してからご使用ください。
 - 充電は 0℃～+45℃の温度範囲内で行ってください。
 - バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性もあり、大変危険です。
 - バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。
 - 必要以上の長時間の充電（過充電）はバッテリーの性能を低下させますのでおやめください。
 - バッテリーパックの保存は、-10℃～+45℃の温度範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの液漏れや、金属部分の錆の原因になりますので避けてください。
 - バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつかたものと思われます。新しいものにお取替えください。
 - バッテリーパックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないでバッテリーパック回収協力店へご持参ください。

1. お使いになる前に

■ リチウムイオンバッテリーパックの充電方法

充電スタンドと AC アダプターを接続してリチウムイオンバッテリーパックを充電します。

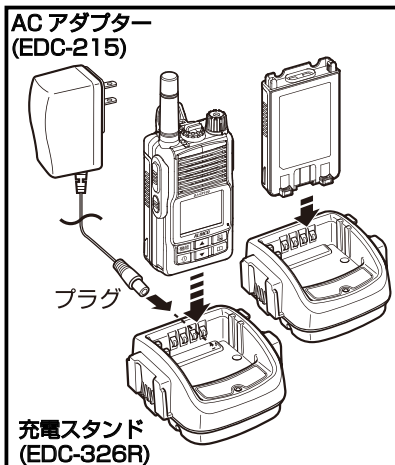
充電方法は付属の AC アダプター（1 台充電用）と、別売 AC アダプター（連結充電用）とで異なります。先に 1 台充電する場合をご紹介します。

- 注意
- バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときはフル充電してからお使いください。
 - 専用充電スタンドでしか充電できません。
 - 充電するときは電源を切ってください。電源を入れたままでは正しく充電できず、バッテリーパックの劣化を早めることになります。また、過充電となり発火等の事故のリスクが高くなります。
 - 本機専用の AC アダプターと充電スタンド以外の使用は危険ですから、絶対におやめください。

● 付属の AC アダプター（1 台充電用） で充電する場合

右図のように付属の充電スタンド EDC-326R と AC アダプター EDC-215 を接続します。無線機ごと、またはバッテリーパック単体をスタンドに乗せると充電スタンドのランプが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色になります。充電時間は空のバッテリーパックをフル充電する場合、約 3 時間です。

- 充電時間はバッテリーの残量や周囲の温度で変動します。
- 充電スタンドのランプが赤色に点滅した場合は正常に充電できていません。また、無線機の電源が入ったままでは正しく充電できません。電源を切ってから充電するか、バッテリーパック単体で充電してください。
- 保管するときはバッテリーパックを無線機から外して保管してください。無線機に装着したままだと、電源を切っていても、待機電流のため徐々に放電します。非常時の備蓄などでバッテリーパックを装着した状態で保管するときは、週に一度は本体から外して液漏れしていないことを確かめてください。また、2 か月以上充電しなかったときは、充電してからご使用ください。



次のページで別売 AC アダプターで充電する場合をご紹介します。

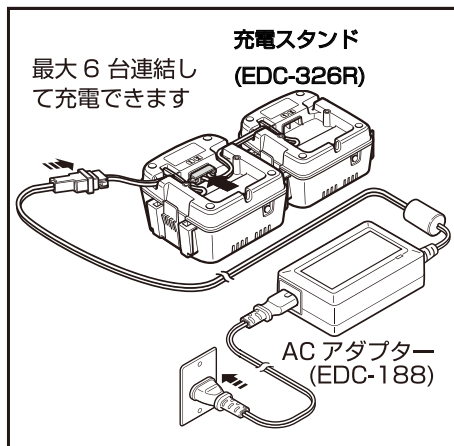
1. お使いになる前に

●別売の AC アダプター（連結充電用）をご使用になる場合

AC アダプター EDC-188 をご購入いただくと、EDC-326R を最大6台まで連結して充電できます。

【連結方法】

※連結する前に AC アダプターをコンセントに接続しないでください。



- 横にある接続部にはめ込んで EDC-326R を使用台数分連結します。
- EDC-326R を裏返し、底部にある接続用ケーブルを外し、図のようにとなりの EDC-326R のジャックに挿しこみます。カチッと音がするまで確実に接続してください。ケーブルは底部の切り込みにはめて、浮かないように固定してください。
- これを必要台数繰り返し、最後に余ったケーブルを EDC-188 アダプターのプラグに接続します。
- EDC-188 の電源ケーブルをコンセントに接続します。

■バッテリーパックに関する重要な説明です。必ずお読みください。

重要 EBP-198 は無線機に正しく装着された場合にのみ IP67 相当の防塵防水保護が機能します。故障に直結するのでバッテリーパックだけの状態では、絶対に水に濡らさないでください。

注意

- バッテリーパックの保管中は、近くに可燃物を絶対に置かないでください。発火時に引火すると大きな事故になります。
- 長時間充電したままにしておくと、バッテリーパックを劣化させることがあります。(過充電)
- バッテリーおよび充電器の充電端子はときどき乾いた綿棒などで清掃してください。汚れていると接触不良の原因となります。(この際に充電端子を変形させないようにご注意ください。)
- 弊社のバッテリーパックは対応する弊社製品専用です。市販や他社製の充電器やアダプターなどで充電すると故障や事故の原因となるので絶対におやめください。
- 充電中、必ず本機の電源スイッチを切ってください。本機の電源が入ったままに充電すると、充電器の赤ランプが点滅し充電できないことがあります。

参考

リチウムイオンバッテリーの保存で最も劣化しやすいのは放電状態、次に満充電状態です。長期間保存するときは表示の電池マークが 1 目盛り減っているのを目安にして、本体から外して乾いた冷暗所に保管してください。1 か月を目安に本体に装着して状態を確認、電池マークが空になっていたら、1 時間程度充電してください。

リチウム系充電電池は使用・保存状態にかかわらず、数年で劣化する性質を持っており、特に長期使用は発熱・発火事故の危険が高くなります。3 年を目安に、長くても 5 年以内に新品にご交換ください。古くなったものはショートを防ぐため金属端子にセロハンテープを貼ってから電池回収協力店の回収ボックスにお出してください。

1. お使いになる前に

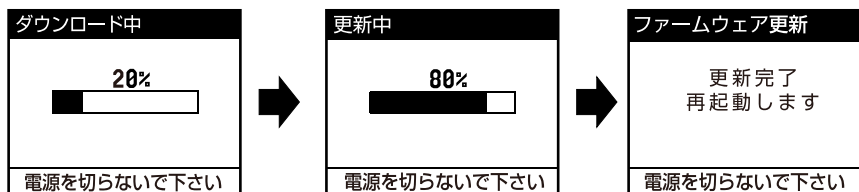
重要 本機はクラウドに接続して機器設定を取得後、運用できる状態になるため、電源スイッチを入れてから運用できるまでに1分程度かかることがあります。また、不定期のファームウェア更新は自動で起動時に行われ、5分程度掛かることがあります。

この間は一切の操作と通信はできません。更新日時を指定することや、手動で更新することもできません。このため、ご使用前は早めに電源を入れて、時間に余裕を持ってお使いください。

■ ファームウェアの更新について

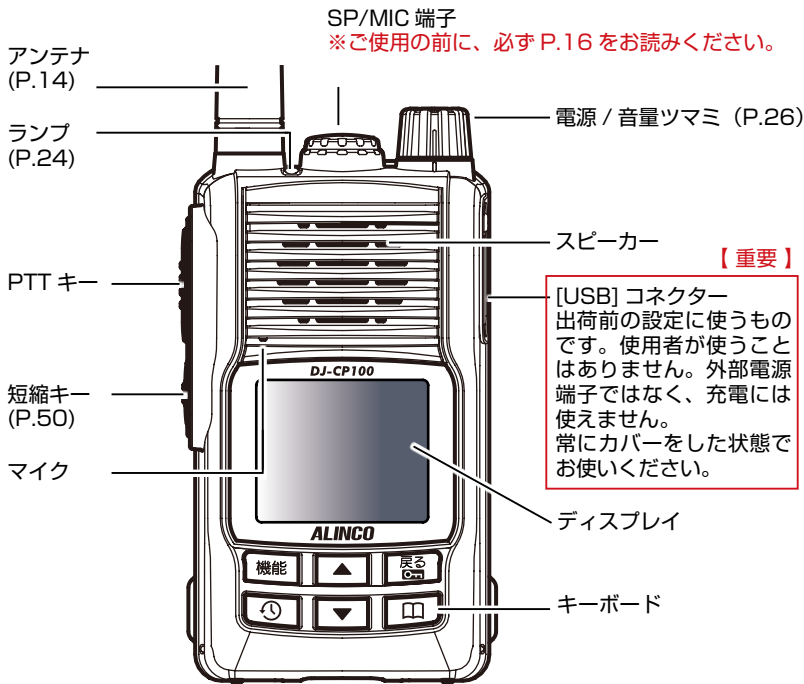
本機は起動中に自動でファームウェアの更新をすることがあります。

下記の画面が表示された場合は、自動的に再起動するまで、電源を切ったりバッテリーパックを外したりしないでください。故障の原因となります。電波の悪いところなどでダウンロード中に回線が不安定な場合は、ダウンロードを中止して待ち受け画面を表示します。ダウンロードを中止した場合は、更新が完了するまで毎起動時に更新を試みます。なお、バッテリー残量が少ない時はファームウェアの更新は行われません。



2. 本体の名称と動作

■ 本体

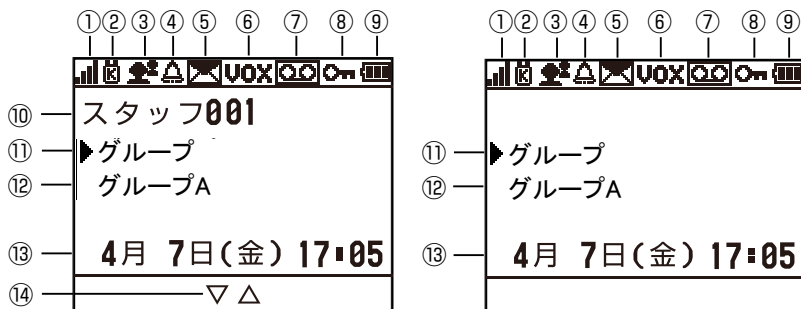


名称	説明
PTT キー	待ち受け画面および受信中のとき： 押すと送信します。離すと受信に戻ります。
※送信キー： Push to Talk、 Press Talk の略	待ち受け画面以外のとき： 押すと待ち受け画面に戻ります。セットモード時は、設定した項目を確定して待ち受け画面に戻ります。
短縮キー	よく使う機能を割り当てることができます。(P.50)
機能キー	待ち受け画面で押すとセットモードを開きます。 そのほか、項目の選択時に使用します。
戻るキー	セットモードを開いているときに押すと前の画面に戻ります。待受画面で押すと通話モードを全員→グループ→個別→会議室と切り替えます。待ち受け画面で長押しするとキーロック設定 / 解除ができます。
▼ / ▲キー	各設定項目などを上下にスクロールするために使用します。 待受画面で押すと通話先を切り替えることができます。
アドレス帳キー	押すとアドレス帳画面を開きます。
履歴キー	通話とメッセージの履歴を確認します。

2. 本体の名称と動作

名称	説明
ランプ	緑点灯：受信中、または通信確立中（通話モード“個別”を除く） 赤点灯：通話モード“個別”で送信中 黄点灯：送信中（通話モード“個別”を除く）、または送受信中 ※ Air-InCom. 使用者に送信すると通話モードに関係なく、ランプは黄色に点灯します。 緑点滅：呼出切替中 (P.68) 白フラッシュ (8 秒に 1 回)：電池電圧低下（電池残量表示が空の時） 白フラッシュ (2 秒に 1 回)：緊急動作 警報音鳴動中 黄点灯中に白フラッシュ (2 秒に 1 回)：緊急動作 送信中または送受信中 水色点滅：短縮キーで音量固定 (P.50) したときや、音量の調整方法を“設定値に固定” (P.74) したとき 紫フラッシュ (4 秒に 1 回)：イヤホン断線検知 青フラッシュ (4 秒に 1 回)：呼び出しあり（ベル機能動作時）/ 未読メッセージあり

■ ディスプレイの表示例（待ち受け中 / 送信中）



	表示内容	説明
①		電波の強度を 4 段階で表示します。 : LTE 通信のとき : 3G 通信のとき : 圏外するとき
②		SIM と回線の接続状態を表示します。 : シングル SIM(au 回線) : シングル SIM(docomo 回線) : デュアル SIM(au 回線選択) : デュアル SIM(docomo 回線選択) (点滅) : 未接続
③		現在の通話モードを表示します。 : 全員・グループ : 個別 : 会議室
④		着信があったことを知らせるベル機能設定時に点灯します。(P.70)
⑤		未読のメッセージがあるときに点灯します。(P.43)
⑥		VOX 機能設定時に点灯します。(P.56, 65)
⑦		未聴の録音データがあるときに点灯します。(P.49 ,69)
⑧		キーロック動作時に点灯します。(P.45)
⑨		バッテリー残量を 4 段階で表示します。 十分に残量があります。 残量が少し減りました。 残量が減りました。充電をお勧めします。 ※残量表示が空になると残量がありません。充電が必要が必要です。 アイコンが点滅します。

2. 本体の名称と動作

	表示内容	説明
⑩	スタッフ001	自分の表示名です。
⑪	▶グループ	通話モードを表示します。(全員・グループ・個別・会議室)
⑫	グループA	通話モードを全員以外に設定しているとき、通話相手のグループ名・会議室名・名称を表示します。
⑬	4月7日 (金)17:05	現在日時を表示します。回線がつながっていれば時間合わせは不要です。
⑭	▽△	グループ通話、個別通話、会議室通話の待ち受け画面で「▽」「△」キーを押すと選択中モード内の通話相手を切り替えることができます。(P.46)

■ ディスプレイの表示例（受信中）



	表示内容	説明
⑮	スタッフ002	受信中に発呼者名を表示します。
⑯	切断	通話画面に「切断」が表示されている間に「戻る」キーを押すと、通話を終了します。(P.47)

■ ディスプレイの表示例（会議室入室中）



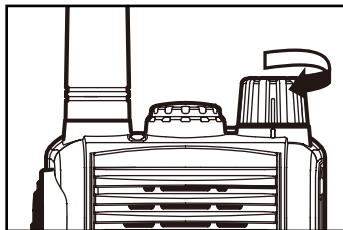
	表示内容	説明
⑰	退出	通話画面に「退出」が表示されている間に「戻る」キーを押すと、通話を終了します。(P.47)

3. 基本操作

■ 電源を入れる

電源 / 音量ツマミを時計方向にカチッと回して電源を入れます。

 キー操作の表記について、本書の説明で参考「キーを押す」はしっかり押した後、すぐに離すことを指します。「キーを長押しする」「約〇秒間押す」「長く押す」は機能が動作するまで押し続けることを指します。



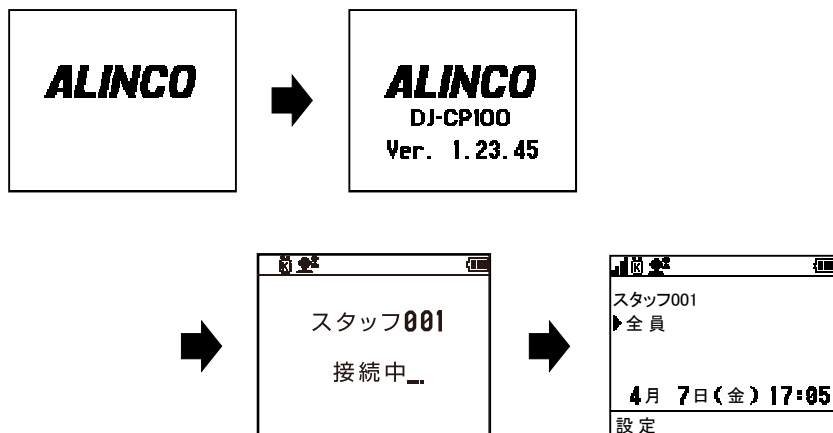
本機は起動後に IP 回線への接続を行います。

接続中はディスプレイに自身の名称と「接続中 ...」の文字が表示されます。

接続が完了すると、「接続中 ...」の文字が消え、待ち受け画面が表示されます。

接続が完了したことを確認してから通信を行ってください。

※電波の状態や、お申し込みのメンバー数により電源を入れてから接続が完了するまでに 1 分以上かかる場合があります。**ファームウェアの更新時はそれ以上かかることがあります。(P.22)**

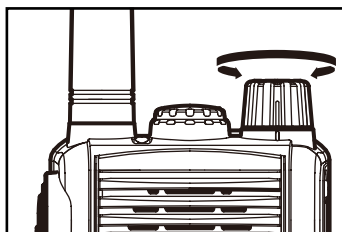


※起動中にツマミを回して電源を切る操作をすると、一旦起動してから電源が切れます。

3. 基本操作

■ 音量を調整する

電源を入れてからツマミを回すと音量が調整できます。時計方向で大きくなり、反対に回すと小さくなります。ツマミを回すとディスプレイに現在のボリュームが表示され、同時に音声ガイダンスが鳴りますので、受信しながら適切な音量に調整してください。調整できる範囲は「0～32」です。イヤホン使用時はボリュームを最小にしておいて、ゆっくりボリュームを上げてください。



■ 交信する

1. 通話モードについて

本機には 4 つの通話モードがあり、用途に合わせて選択します。

初期値は「全員」が選択されています。

交信時に相手の通話モードを気にする必要はありません。自分と相手の通話モードが異なっても、相手は自動的に通話モードが切り替わり、受信します。

※ただし、相手が話し中、または会議室入室中は切り替わりません。

通話モード	用途	連続通話
全員	通話メンバー全員に声をかけて、短い連絡を取り合ったりするのに最適です。 ※ Air-InCom. では通話モード“グループ”扱いになります。	10 分まで
グループ	自分が所属するグループのメンバーとだけ通話するモードです。チームワーク作業の通話に向いています。	10 分まで
個別	特定の相手と 1 対 1 で通話する場合に選択します。 ※ご契約内容によっては表示されず、ご使用になれません。	時間制限なし
会議室	グループの中から任意のメンバーだけで通話する場合に選択します。	時間制限なし

- 通話モード「全員」と後述の「グループ」(P.34) は、連続して通話できる時間は最長 10 分です。
- 通話モード「全員」、「グループ」、「会議室」は回線状況により快適に通話できる人数が変わります。概ね 10 名程度が限度で、多くなると通話障害が起きます。
- 通話モード「全員」と「グループ」でランプが黄色、もしくは緑色に点灯中は、お互いに送受信を切り替えていても 1 通話とみなして、10 分経過すると自動で通話を終了して待ち受け画面に戻ります。PTT キーを離して緑のランプが消灯したらこのタイマーはリセットされます。10 分を超えて通話したい場合は、通話モード「個別」(P.35) か「会議室」(P.37) をご使用ください。

3. 基本操作

2. 通話設定について

本機は 3 つの通話設定があり、交互通話の他、同時通話、エコー軽減通話ができます。

初期値は「交互通話」が選択されています。通話設定を変更してご使用になるには「セットモード」(P.59～63)をお読みになった後、「通話設定」(P.57)をお読みください。

通話設定	説明	ハウリング・エコーが生じる可能性
交互通話	一般の無線機のように自分と相手が交互に話す通話です。	なし
同時通話	電話と同じように自分と相手が同時に話すことができる通話です。	あり
エコー軽減		あり（軽減）

※ Air-InCom. では通話設定はなく、常に同時通話となります。

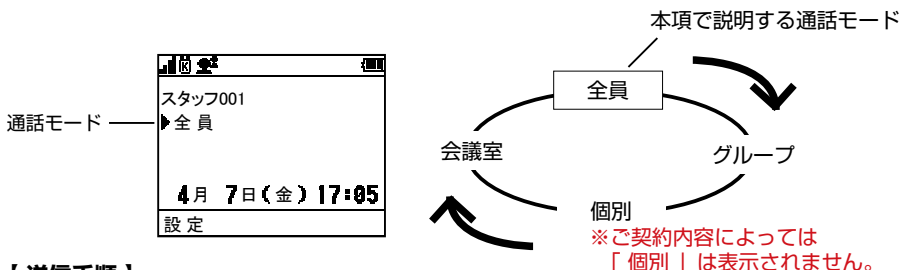
3. 送信する

通話の基本をここで説明していますので、この項目は必ずお読みください。

初めに、待ち受け画面に通話モード「全員」が表示されていることをご確認ください。

表示されていないときは、「戻る」キーを何度か押して「全員」を選択します。

「戻る」キーを押すたびに以下のように通話モードが切り替わります。



【送信手順】

1: 待ち受け画面に「全員」表示中に「PTT」キーを押し続けるとランプが黄色に点灯します。

※ランプが黄色に点灯する前に、一瞬赤色に点灯しますが、異常ではありません。

2: 黄色点灯になったらマイクに向かって話します。PTT キーは通話中押し続けます。

3: 話し終わったら PTT キーを離します。このとき、ランプは緑色点灯に変わります。

相手が応答すると、その声が聞こえます。

※通話設定が「同時通話」、または「エコー軽減」の場合は、話し中に相手から応答があったら、そのまま応答を聴くことができます。

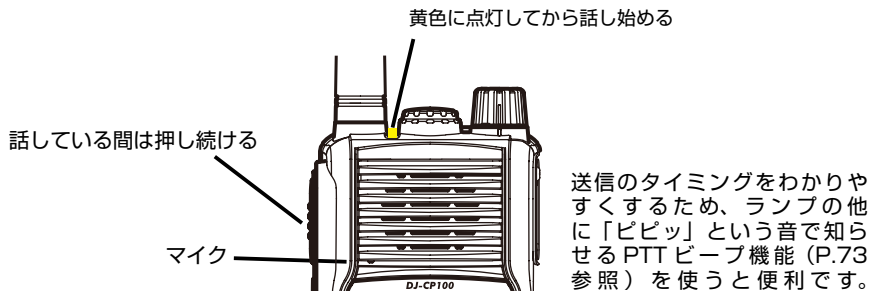
4: 一旦通話が始まると、待ち受け中もランプが緑に点灯して「切断」が表示されます。

「切断」が表示中に PTT キーを押すとランプが黄色点灯の送信状態になり、再び通話を再開できます。

5: 約 10 秒間通話が無いと緑のランプと「切断」表示が消え、元の待ち受け状態に戻ります。

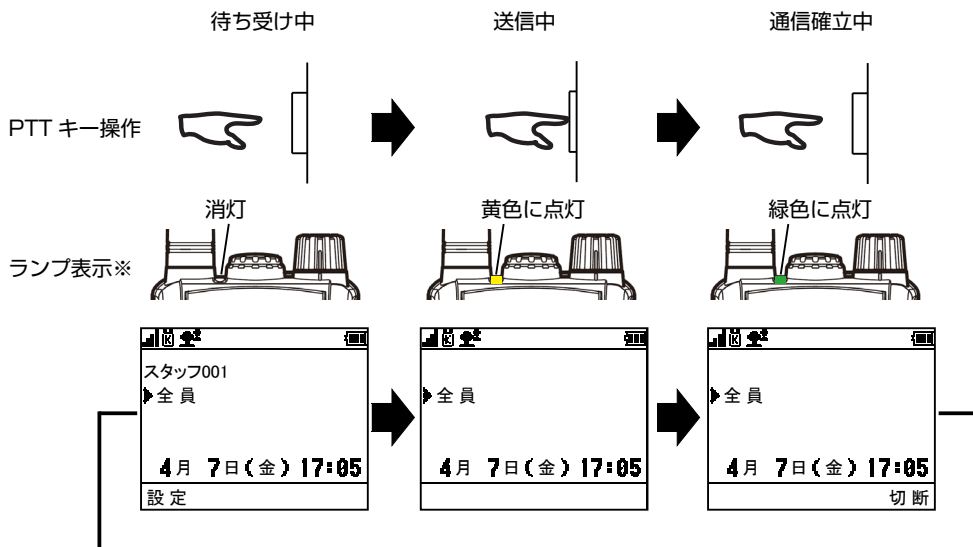
詳しい説明は次のページをお読みください。

3. 基本操作



- 注意**
- ・ランプが緑色に点灯中でも、通話するときは PTT キーを押してから一呼吸おいて話し始めるとスムーズに通話できます。
 - ・危険作業時は通話時間に制限のない通話モード「個別」(P.35) または「会議室」(P.37) をご使用ください。引き続き本書をお読みください。

PTT キー操作によって、ランプ表示、ディスプレイ表示は以下のように変化します。



※通話モード「全員」と「グループ」のランプ表示は共通です。「個別」と「会議室」は表示色や点灯するタイミングが異なりますので、別途 P.35 ～ 38 でご説明します。

3. 基本操作

重要 マイクについて

- マイクと口元は 5cm ほど離してください。マイクに向かって話すとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると送信音声が歪み、声が小さいと相手が聞き取れなくなりますのでご注意ください。
- 本機は防水を施すため、内蔵マイクの前に特殊な布製素材を貼り付けています。このため、内蔵マイクと外部マイク等のアクセサリを使用したときとではわずかに音質が変わって聞こえる場合がありますが、異常ではありません。
- マイク穴にステッカーやラベルを貼ったり、送信中に手や指でふさがないようにください。声を拾わなくなります。

3. 基本操作

4. 応答する

【 応答手順 】

- 1：信号を受信すると、ランプが緑色に点灯し音声がかかります。このとき、ディスプレイに通話モードと発呼者名が表示されます。

※発呼者とは通話を始めた人のことをいいます。

※後に説明する、アドレス帳や履歴等の待ち受け画面以外を開いているときでも受信します。

通話モード

発呼者名

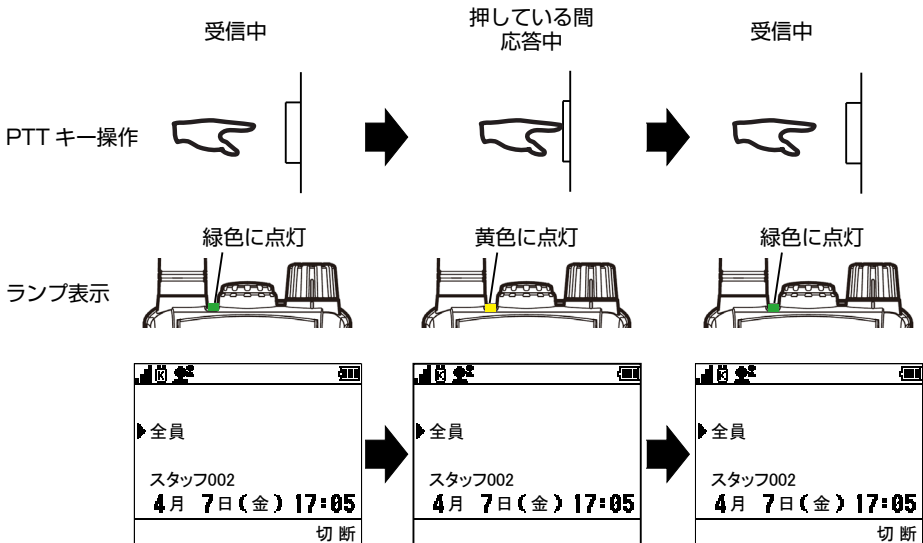


- 2：発呼者が話し終えた後に、「PTT」キーを押して応答をします。このとき、ランプが黄色点灯します。

※通話設定が「交互通話」のときは PTT キーを押している間、受信音がミュートされます。
「同時通話」、または「エコー軽減」のときは受信音がミュートされることはありません。

- 3：応答を終えた後、「PTT」キーを離すと、受信状態に戻ります。

PTT キー操作によって、ランプ表示、ディスプレイ表示は以下のように変化します。



3. 基本操作

5. 交信を終える

通話中に自分と通話相手の双方が 10 秒間 PTT キーを押さなかった場合は通話を自動的に終了します。または、ディスプレイに「切断」と表示されている間に「戻る」キーを押すと通話を終了します。「切断」には注意点がありますので、P.47 をお読みください。

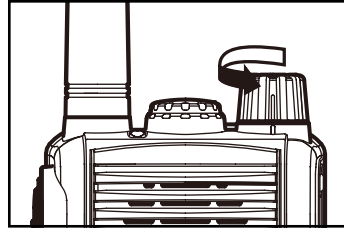
■ 電源を切る

電源 / 音量ツマミを反時計方向にカチッと鳴るまで回します。

本機はツマミを回して電源を切っても、少しのあいだは通電状態になっています。

ディスプレイの「電源 OFF...」の文字が消えるまでは、絶対にバッテリーパックを取り外さないでください。

また電源を切ったあとに再度電源を入れなおす場合は、ディスプレイの「電源 OFF...」の文字が消えたあと、数秒待ってから電源を入れてください。



シャットダウン

電源 OFF...

バッテリーを
外さないでください

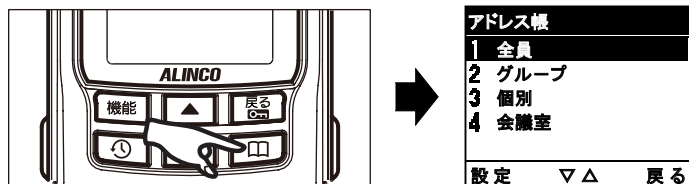


- 注意
- 処理が完了する前にバッテリーパック / 乾電池ケースを取りはずした場合、故障の原因となります。また、履歴が消えたり、消去した履歴が残ったりすることがあります。消えた履歴は復元できません。履歴が残ったら、再度削除操作してください。
 - シャットダウン中にツマミを回して電源を入れた場合、シャットダウン後に電源が入ります。
 - バッテリー残量がわずかになり、機能を維持できなくなると自動的に電源が切れます。充電してからご使用ください。
 - オートパワーオフ機能等が働くと、ツマミの位置に関わらず電源が切れます。その状態からご使用になるには、一度ツマミを電源切の位置に合わせてから、電源を入れなおしてください。

4. 応用操作

■ アドレス帳の使いかた

待ち受け画面表示中に [] キーを押してアドレス帳を開きます。



アドレス帳が表示されたら「▽」「△」キーで通話モードを選択し「機能」キーを押します。

アドレス帳を閉じるには「戻る」キーを押します。

※アドレス帳は申込書に記載いただいた内容に沿って予め設定されています。

内容の変更は、ご契約時の販売店にご相談ください。

■ 通話モードの種類と通話相手の選択

ここで 4 つの通話モードの詳細をご説明します。用途に合わせてご使用ください。

※通話相手が異なる通話モードで待ち受けしていた場合でも受信します。

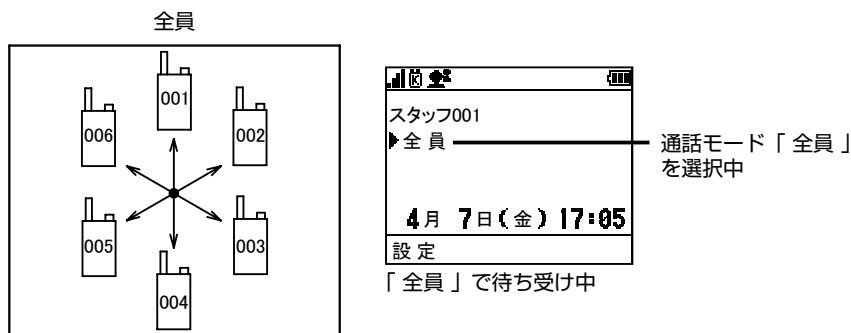
通話する前に通話相手の選択が正しいかご確認ください。

電源を切る前に表示していた待ち受け相手を自動で保存します。再起動後も維持されます。

1. 全員

基本操作の項目でご説明した通話モードです。

操作の詳細は P.28 ～ 32 をご参照ください。

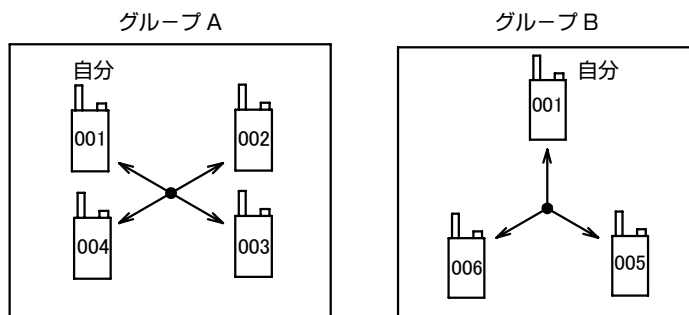


4. 応用操作

- 注意** • 通話モード「全員」と「グループ」を選択しているときは、一般のトランシーバー同様、通話相手の電源が入っていない状態や、圏外の状態でも送信できますが、相手に届いているかどうかは送信者にはわかりません。別の通話モード「グループ」や「会議室」、「個別」で通話中のメンバーにも呼び出しは伝わりません。重要な作業の前などは、無線機の動作チェックも兼ねて「Aさん、聞こえる?」「はい、聞こえます。」「Bさんは?」「OKです。」のように点呼をしてから通話することをお勧めします。
- ディスプレイに「切断」と表示中は、通話モード、通話相手を切り替えることはできません。切り替えたい場合は「戻る」キーを押し、ディスプレイの「切断」表示が消灯したあとで操作してください。
 - 通話モード「全員」と後述の「グループ」は、連続して送信できる時間は最長10分です。10分を超えて通話したい場合は、P.37の通話モード「会議室」をご使用ください。

2. グループ

自分が所属するグループのメンバーとだけ通話するモードです。チームワーク作業の通信に向いています。



【グループの選択】

- 1: 「」キーを押してアドレス帳を表示します。
- 2: 「」キーで「グループ」を選択し、「機能」キーを押します。
- 3: 「宛先の選択」画面で通話したいグループを、「」「」キーで選択します。
- 4: もう一度「機能」キーを押すと、確定して待ち受け画面に戻ります。

4. 応用操作

- 重要**
- グループはご契約時に申込用紙に記載された内容が登録済みです。アルインクラウドサービスでグループに所属するメンバーの編集はできますが、グループの新規追加やメンバーの追加削除などはできません。
 - アルインクラウドサービスの操作は本書とは別の「アルインクラウドサービス操作マニュアル」をご参照ください。
 - グループの追加等をご契約時の販売店にご相談ください。

通話モードの選択

アドレス帳	
1	全員
2	グループ
3	個別
4	会議室
設定 ▼△ 戻る	

宛先の選択

宛先の選択	
1	グループA
2	グループB
3	グループC
4	グループD
5	グループE
設定 ▼△ 戻る	

待ち受け画面	
スタッフ001	
▶グループ	
グループA	
4月 7日(金) 17:05	
設定 ▼△	

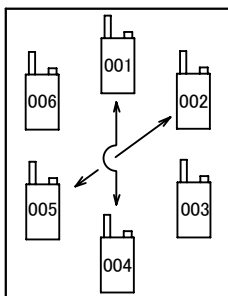
「グループ」で待ち受け中

基本の通話操作は前述の通話モード「全員」と同じです。

3. 個別

ご契約内容によっては「個別」の表示はされますが、選択できません。
特定の相手と1対1で通話する場合に選択します。通話時間に制限はありません。

個別



【通話相手の選択】

- 1: 「」キーを押し、「▼」キーで「3. 個別」を選び、「機能」キーを押します。
- 2: 「宛先の選択」画面で通話相手を「▼」「△」キーを押して選びます。
- 3: もう一度機能キーを押すと、確定して待ち受け画面に戻ります。

アドレス帳	
1	全員
2	グループ
3	個別
4	会議室
設定 ▼△ 戻る	

宛先の選択	
1	スタッフ002
2	スタッフ003
3	スタッフ004
4	スタッフ005
5	スタッフ006
設定 ▼△ 戻る	

待ち受け画面	
スタッフ001	
▶個別	
スタッフ002	
4月 7日(金) 17:05	
設定 ▼△	

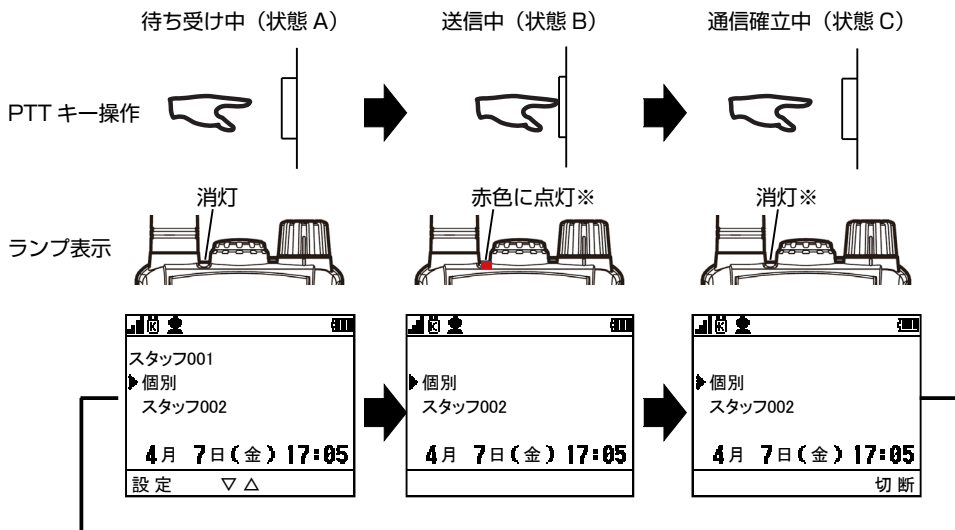
「個別」で待ち受け中

4. 応用操作

【送信手順】

通話モード「個別」で待ち受け中に PTT キーを押すと、選択した相手に送信します。

PTT キー操作によって、ランプ表示、ディスプレイ表示が以下のように変化します。



※ Air-InCom. 使用者に送信したときのランプ表示は、通話モード「全員」と共通です。

【応答手順】

1: 信号を受信すると、ランプが緑色に点灯し音声聞こえます。
このとき、ディスプレイに通話モードと発呼者名が表示されます。

2: 受信中に「PTT」キーを押すと応答ができます。

応答中は、ランプが下記のように点灯します。

発呼者が送信中 : 黄色
発呼者が送信を停止中 : 赤色

3: 「PTT」キーを離すと、上図の“状態 C”に戻ります。



注意

通話モード「個別」では、相手が通話できない状態の場合、PTT キーを押し続けてもランプが赤色に点灯せず、自動で待ち受け画面に戻ります。また、失敗通知 (P.72) をオンにしている場合はブブツと音が鳴ります。

相手が通話できない場合の例:

- 別の人と通話をしている
- 電源を切っている
- 圏外になっている

4. 応用操作

4. 会議室

グループの中から任意のメンバーだけで時間に制限なく通話するための場所として、各グループに1室ずつ「会議室」が用意されています。

会議室はグループ所属スタッフのうち最大10名まで通話することができます。

事前に個別/グループ通話などで、入室するメンバーや時間などを決めておきます。

会議室は他の通話モードと異なりPTTキーを押して入室する操作が必要です。

待ち受け画面のままでは通話に参加できません。

【会議室の選択と入室】

1: 「**[田]**」キーを押し、「**▽**」キーで「4. 会議室」を選び、「機能」キーを押します。

2: 「宛先の選択」画面で、通話相手を「**▽**」「**△**」キーで選びます。

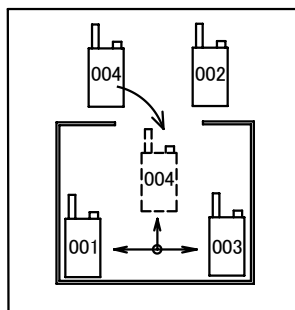
3: もう一度機能キーを押すと、確定して待ち受け画面に戻ります。「会議室」と、選択したグループ名が表示されます。

4: 待ち受け中に「PTT」キーを押すと入室します。
入室するとランプが緑色に点灯し、ディスプレイに「退出」が表示されます。

5: 入室中に「PTT」キーを押すと送信します。
送信中はランプが黄色に点灯し、入室した相手と通話できます。

6: 入室中に「戻る」キーを押すと退室し、通話を終了します。

会議室に入室するイメージ

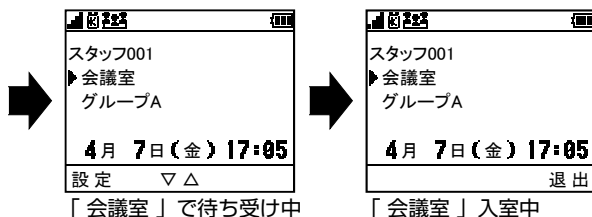


通話モードの選択

アドレス帳	
1	全員
2	グループ
3	個別
4	会議室
設定 ▽△ 戻る	

宛先の選択

宛先の選択	
1	グループA
2	グループB
3	グループC
4	グループD
5	グループE
設定 ▽△ 戻る	



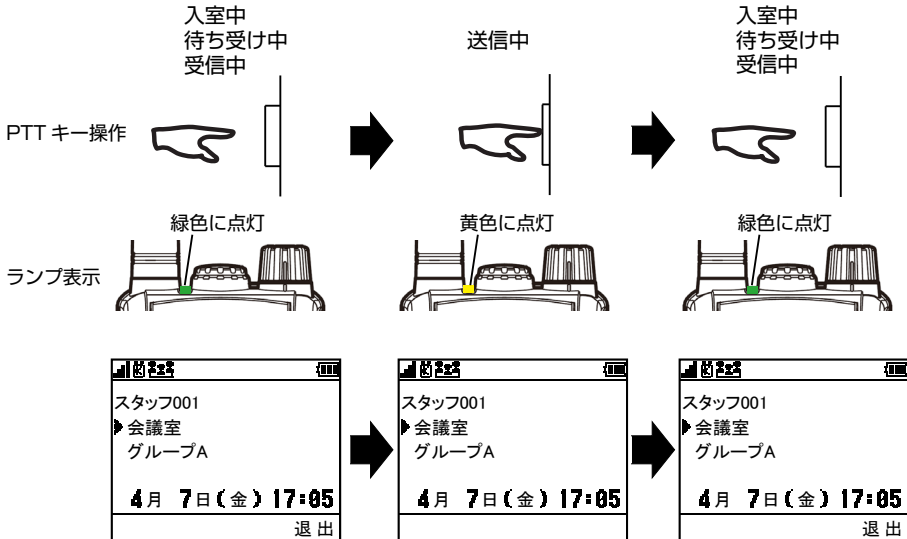
4. 応用操作

※ 入室後、常に受信状態となりランプが緑色に点灯します。

自分以外に入室者がいない場合はそれを知らせるアナウンスと保留音が聞こえます。

自分以外に入室があると保留音が止まって、ビポッと音が鳴って知らせます。

入室中は PTT キー操作によって、ランプ表示、ディスプレイ表示が以下のように変化します。



入室中は常に受信状態となり、他の通話モードのように「待ち受け中」や「受信中」の区別はありません。通話が切断された場合は、もう一度「PTT」キーを押してランプが緑色に点灯するまでお待ちください。

注意

- ・会議室は発呼者をディスプレイに表示しません。
- ・入室していないスタッフは通話を聴くことはできません。
- ・「会議室」が使用中でも、会議に参加していないメンバー同士は別の会議室での通話や、グループ通話、個別通話ができます。
- ・入室中は他モードの通話は受信できません。また、緊急呼出についても受信できません。
- ・「会議室」では録音動作設定に関わらず、会話を録音しません。

4. 応用操作

■ メッセージを送る

本機のメッセージは、短い定型文を選んで送信する機能です。

ご契約時に申込用紙に記載された内容が登録済み（1件 128文字以内、最大 20件）です。

※本機でメッセージ文の編集はできません。

変更をご希望の場合はご契約の窓口にご相談ください。

重要 インターネットや電話の SNS のメッセージ機能とは異なります。

確実に伝えたい情報は音声通信で連絡してください。

※このような時はメッセージが受信できず、履歴も残りません。

- 電波が弱い、不安定など、電波環境が悪いときに送られたメッセージ
- 電源を入れていないときに送られたメッセージ

※メッセージが相手に届いたかどうかを本機で確認する方法はありません。

※メッセージの不達通知、自動再送、エラー表示機能などはありません。

待ち受け画面表示中に「機能」キーを押して、セットモードを開きます。

次に「メッセージ送信」を選び「機能」キーを押します。

「▽」「△」キーで送信先を選び「機能」キーを押します。

セットモード 標準		
1	メッセージ送信	
2	緊急呼出	
3	機器設定	
4	機器情報	
設定 ▽ △ 戻る		



メッセージ送信		
1	全員に送信	
2	グループに送信	
3	個別に送信	
設定 ▽ △ 戻る		

送信先選択画面

※申し込み内容によってはセットモード簡易が表示されます。

※ご契約内容によっては「個別に送信」は表示されず、送信もできません。

4. 応用操作

「▽」「△」キーで送信するメッセージを選択します。

メッセージ選択	
1	集合してください
2	了解です
3	作業開始
4	作業完了
5	報告してください
設定 ▽ △ 戻る	

メッセージ選択画面の例

送信先と選択したメッセージが正しいことを確認し、「機能」キーを押して送信します。

送信先
選択したメッセージ

メッセージ送信	
☞ 全員	集合してください
送信しますか？	
はい	いいえ

送信内容の確認画面

メッセージ送信結果	
☞ 全員	集合してください
送信完了	
戻る	

送信完了画面

送信が完了すると待ち受け画面に戻ります。

※送信に失敗した場合は、メッセージ送信内容の確認画面に戻ります。再度送信してください。

それでも失敗する場合は、電波が弱いか、不安定な可能性があります。場所を移動するか時間を置いてから送信してください。

メッセージ送信結果	
☞ 全員	集合してください
送信失敗	
戻る	

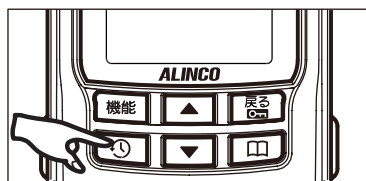
メッセージ送信	
☞ 全員	集合してください
送信しますか？	
はい	いいえ

送信内容の確認画面

4. 応用操作

■ 履歴の確認と消去

通話履歴、メッセージ履歴の確認と履歴の消去ができます。



履歴	
1	通話履歴
2	メッセージ履歴
3	履歴消去
設定 ▼△ 戻る	

待ち受け画面表示中に「」キーを押します。

「▼」「△」キーで目的の項目を選択し、「機能」キーを押します。

1. 通話履歴の確認

「通話履歴」を選びます。

「▼」「△」キーで受信履歴か送信履歴を選択して「機能」キーを押すと、それぞれの履歴が表示されます。

受信履歴、送信履歴のどちらかを「▼」「△」キーで選び、機能キーを押すと個別の情報画面が表示されます。

※履歴がないときは、「履歴なし」と表示します。

通話履歴	
1	受信履歴
2	送信履歴
設定 ▼△ 戻る	

【表示アイコンの意味】

通話履歴	
1	スタッフ001
2	スタッフ002
3	スタッフ001
4	グループA
5	スタッフ001
設定 ▼△ 戻る	

録音がある場合に表示します。

未聴の録音があるときに表示します。

通話履歴	
スタッフ002	
2月24日(金) 20:30	
戻る	

受信日時

※後述のセットモードで録音動作設定をオフにすると録音されず、アイコンも表示されません。

録音機能の詳細は P.49, 69 をご参照ください。

※通話履歴は録音動作設定にかかわらず、1 通話 / 1 件として、受信 20 件、送信 20 件の最大 40 件まで保存します。これを超えると古いものから自動的に削除されます。

※通話モード“会議室”では録音動作設定に関わらず録音されません。

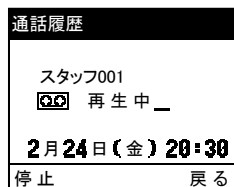
4. 応用操作

2. 通話履歴の録音再生

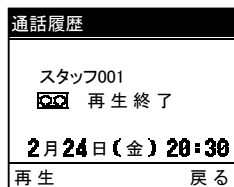
録音アイコンが表示されている通話履歴を選択して「機能」キーを押すと、以下の表示になります。



再度「機能」キーを押すと再生を開始し、画面に「再生中…」と表示します。



再生が終わると「再生終了」と表示します。



- ※再生中に「機能」キーを押すと再生を終了します。
- ※録音を再生中に PTT キーを押すと、再生を中止して待ち受け画面に戻ります。
- ※録音時間は最大 1 分です。それを超えた分は録音されません。
- ※録音する対象は録音動作設定 (P.69) で設定できます。
- ※応答した場合も相手からの音声だけが最大 1 分録音されます。
- ※本機の録音データは、音声ファイルとして出力することはできません。

4. 応用操作

3. メッセージ履歴の確認

「メッセージ履歴」を選びます。

履歴	
1	通話履歴
2	メッセージ履歴
3	履歴消去
設定 ▼ ▲ 戻る	

「▼」「▲」キーで[1.メッセージ受信履歴]または[2.メッセージ送信履歴]を選択し、「機能」キーを押すと、それぞれの履歴一覧を表示します。履歴がないときは[履歴なし]と表示します。

メッセージ履歴	
1	メッセージ受信履歴
2	メッセージ送信履歴
設定 ▼ ▲ 戻る	

履歴一覧から「▼」「▲」キーで選択し「機能」キーを押すと履歴の詳細情報を表示します。

メッセージ受信履歴	
1	スタッフ001 *
2	スタッフ002
3	スタッフ002
4	スタッフ002 *
5	スタッフ001
設定 ▼ ▲ 戻る	

受信履歴の表示例



未読メッセージに点灯

メッセージ受信履歴	
☒ スタッフ002	集合してください
2月24日(金) 20:30	
返信	戻る

受信履歴の詳細情報を表示中

※送信履歴を表示中は、返信ではなく再送と表示されます。

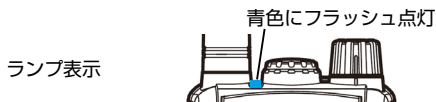


参考

- メッセージが表示されるまでに数秒かかることがあります。
- メッセージが正しく表示されないときは一度履歴画面を閉じて、開きなおしてください。
- メッセージを受信したときは、待ち受け画面上に「」が点灯します。
- メッセージ履歴は送信 20 件、受信 20 件の合計最大 40 件まで保存できます。これを超えると自動的に古いものから削除されます。
- セットモードでメッセージ受信禁止 (P. 69) を選択された場合は、メッセージを受信せず、履歴にも残りません。
- Air-InCom. とメッセージ、チャットのやり取りはできません。

4. 応用操作

- 未読のメッセージがある場合はランプが 4 秒に 1 回、青くフラッシュ点灯します。



4. メッセージ履歴からメッセージを返信または再送する

メッセージ受信履歴（メッセージ送信履歴）の詳細情報を表示中に「機能」キーを押すと、メッセージ選択画面が表示されます。「▽」「△」キーでメッセージを選択し、「機能」キーを押すと、メッセージを返信（再送）できます。

メッセージ受信履歴	
☛ スタッフ002	
集合してください	
2月24日（金）20:30	
返信	戻る



メッセージ選択	
1	集合してください
2	了解です
3	作業開始
4	作業完了
5	報告してください
設定	▽ △ 戻る

受信履歴の詳細情報を表示中

※送信履歴を表示中は送信ではなく再送と表示されます。

再度「機能」キーを押すとメッセージが返信（再送）されます。

メッセージ送信	
☛ スタッフ002	
了解です	
送信しますか？	
はい	いいえ

5. 履歴の消去

「履歴消去」を選び「機能」キーを押すと、履歴消去画面が表示されます。

履歴	
1	通話履歴
2	メッセージ履歴
3	履歴消去
設定 ▽ △ 戻る	



履歴消去	
履歴を消去しますか？	
はい	いいえ

再度「機能」キーを押すと通話履歴（録音含む）・メッセージ履歴ともに全てが消去されます。
選択消去はできません。消去が完了すると待ち受け画面に戻ります。

5. 便利な機能

■ キーロック

意図せず キー や スイッチ に触れても設定や表示が変わらず、限定的な操作だけができる機能です。切り替えは簡単にできるので、誤操作防止のため、運用中はキーロックして置くことをお勧めします。

キーロック中にできる操作： PTT 操作

短縮キー

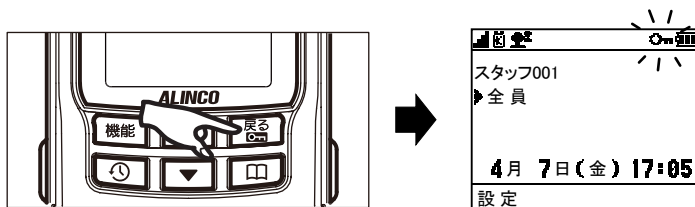
※緊急呼出、またはダイレクトコールを割り当て中のみ

音量変更

電源のオンオフ

【 設定方法 】

- 待ち受け画面で「戻る」キーを 3 秒以上長押しするとキーロック状態になりディスプレイに「」アイコンが点灯します。解除するときは、再度「戻る」キーを長押しして「」アイコンを消します。

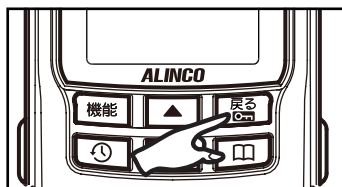


- キーロック中にキー操作をすると「ブブブ」とビーブ音 (P.70) が鳴ります。
また、音声ガイダンス (P.71) を「状態通知のみ」もしくは「両方オン」に設定中は「キーロック中です」とガイドします。

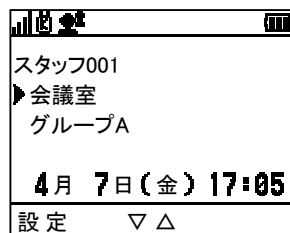
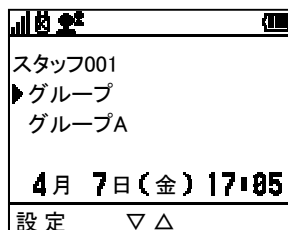
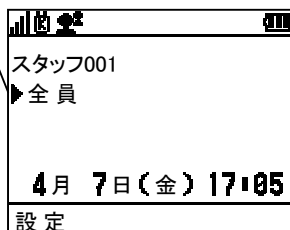
5. 便利な機能

■ 通話モードをワンタッチで切り替える

P.28 の基本操作でご説明したように、待ち受け画面で「戻る」キーを押すと、**通話モードを 全員 → グループ → 個別 → 会議室 の順に切り替えられます。**

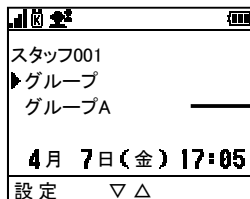
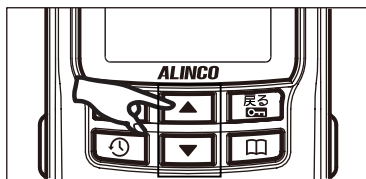


通話モード



■ 通話相手をワンタッチで切り替える

通話モード「全員」を除く待受画面で、「▽」「△」キーを押すと選択中モード内の通話相手を切り替えることができます。「▽」「△」キーで選択し、「機能」キーで決定します。



グループ B
グループ C
グループ D

※全員呼出で待ち受け中は切替できません。

5. 便利な機能

■ 通話の終了（切断と退出）

通話中で、通話画面に「切断」が表示されている間に「戻る」キーを押すと、通話を終了します。
通話モードによって、以下のように動作します。

【全員、またはグループ】

- 自分が発信者（最初に通話を始めた）の場合：

ほかのユーザーが会話中でもグループ通話全体を終了し、グループ全員が待ち受け画面に戻ります。

- 自分が参加者の場合：

自分だけが通話を終了し、待ち受け画面に戻ります。

ほかのユーザーの通話は継続されます。

※切断したグループの通話を受信することはありません。

切断したグループ通話に戻るには、そのグループを選択して PTT キーを押します。

【個別】

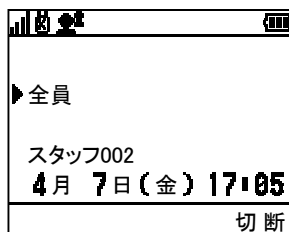
個別通話を終了します。

呼出相手が PTT キーを押し続けていても通話を終了して待ち受け画面に戻ります。

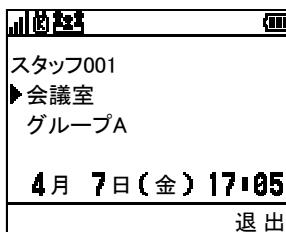
【会議室】

会議室で通話中は切断の代わりに「退出」と表示されます。退出表示中に「戻る」キーを押すと、自分だけが通話を終了し、待ち受け画面に戻ります。

ほかのユーザーの通話は継続されます。



切断が表示されている画面例



退出が表示されている画面例

5. 便利な機能

■ 自動切断機能

通話モード「全員」や「グループ」、「個別」で通話中に自分もしくは通話相手が10秒間PTTキーを押さなかった場合は通話を自動的に終了します。本機能を無効にすることはできません。

※本機能により「会話していないのに通話中で呼出を受けられない」状態を防ぎます。

通話モード「会議室」では、本機能は働きません。

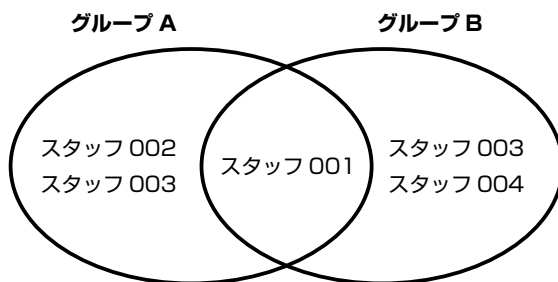
■ 自動参加機能

通話モード「全員」や「グループ」で待ち受け中で、自分が他の通話に参加していたために、待ち受け中の相手から受信できなかったときでも、他の通話が終了した後に受信できなかった通話に自動的に参加します。

例)

下記のようにグループA、グループBの2つのグループがあり、スタッフ001がグループAとグループBの両方に所属している状態を例に、自動参加の動作をご説明します。

スタッフ001はグループAで待ち受け中に、グループBの通話に参加しています。



【自動参加の動作】

スタッフ001がグループBで通話中にグループAから呼出があると受信できません。しかし、自動参加機能によって、グループBの通話が終了した後、グループAでの通話に自動的に参加します。

※グループBの通話が終わった時点で、グループAの通話が終了していた場合は自動参加しません。

※グループBの通話を「切断」(P.47)した場合は本機能は働きません。

※通話モード「個別」で待ち受け設定中は働きません。

6. 便利な機能(セットモード操作)

ここからは後述の「セットモード」操作をすることで使えるようになる、便利な機能の内容をご説明します。実際の操作は「セットモード」(P.59～63)をお読みになってから、関連ページで個別の設定をしてください。以下、() はセットモードの設定方法のページ番号です。

青色が付いている項目は簡易セットモードで設定できる項目です。

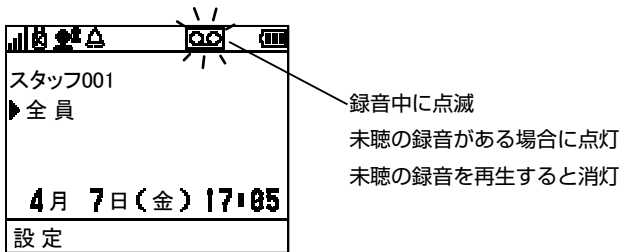
■ 録音動作設定 (P.69)

通話内容を録音する機能です。録音の長さは受信または送信の直後から最大 1 分間で受信録音、送信録音ともに最大各 20 件まで保存します。新たな録音があると、古い録音が自動的に消去されます。

未聴の録音がある場合は、待ち受け画面に「」アイコンを表示します。

※録音のタイミングは選択できません。

※通話履歴は本設定と関係なく保存されます。



■ 音声ガイダンス (P.71)

音声ガイダンスは音量を変更したときに音量値を読み上げたり、メッセージを受信したときに知らせたりしてユーザーを補助する機能です。音声ガイダンスの動作条件は「音量案内のみ」と「状態通知のみ」、「両方オン」の3つあります。

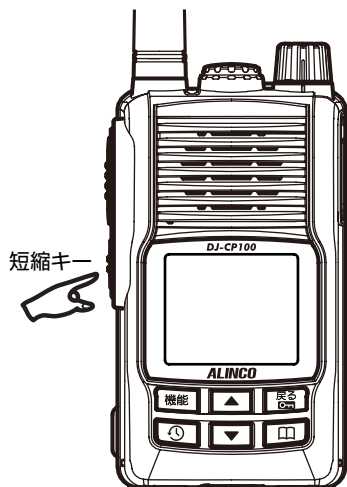
- 「音量案内のみ」を設定すると、音量変更時に音量値をガイダンスで知らせます。
- 「状態通知のみ」を設定すると、以下の状態をガイダンスで知らせます。
 - 「キーロック中です。」
 - 「メッセージを受信しました。」
 - 「送信時間の制限を超えました。」
 - 「送信制限中です。」
 - 「電池の残量が残りがわずかです。」
 - 「まもなく電源が切れます。」
- 「両方オン」を設定すると、上記のどちらもガイダンスで知らせます。

6. 便利な機能(セットモード操作)

■ 短縮キー動作 (P.74)

短縮キーによく使う機能を割り当てることができます。

割り当てられる機能は以下の通りです。



- ・ **オフ** : 短縮キーに何も割り当てない時。
- ・ **緊急呼出** : 長押しすると緊急呼出機能が動作します。
再度長押しすると動作を停止します。
- ・ **ダイレクトコール** : 素早く連絡を取りたい相手に送信できます。
通信相手はセットモードの「ダイレクトコール」(P.67) で設定します。
※ 「VOX 動作設定」(P.56, 65) がオフ以外に設定されていると動作しません。
- ・ **音量固定・連動** : 長押しすると音量ツマミの位置と関係なく、セットモードの「固定音量レベル」(P.75) で設定した値に音量を固定します。再度長押しすると音量ツマミと連動します。
- ・ **最終録音再生** : 最後に録音されたデータを再生します。
- ・ **ミュート** : 長押しすると受信音をミュートします。
再度長押しすると元の音量に戻ります。



緊急呼び出しとダイレクトコールはキーロック中でも動作します。

6. 便利な機能(セットモード操作)

■ 緊急呼出 (P.64)

お申し込み時に指定のあったグループや周囲の人に緊急事態を知らせる機能です。

呼出するには

セットモードの緊急呼出、又は短縮キー (P.50) に割り当ててキーを長押しすることで動作します。動作にはいくつかの種類がありますので、次ページでご説明します。

セットモードから緊急呼出する場合：

待ち受け画面表示中に「機能」キーを押してセットモードを開きます。
次に「緊急呼出」を選び「機能」キーを押します。

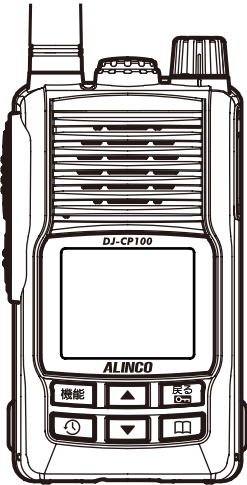
セットモード 標準	
1	メッセージ送信
2	緊急呼出
3	機器設定
4	機器情報
設定 ▽ △ 戻る	

➡

緊急通話	
緊急呼出 しますか?	
はい	いいえ

短縮キーから緊急呼出する場合：

短縮キー



短縮キーを長押しすると緊急呼出します。
※確認画面は表示されません。

6. 便利な機能(セットモード操作)

緊急呼出の種類と動作

動作にはいくつかの種類があり、「**緊急動作設定**」(P.75) で下記の機能を選べます。いずれも、動作中に PTT キーを押して音声送信はできません。一種類だけ動作させたいときは、それ以外の動作時間をオフにしてください。

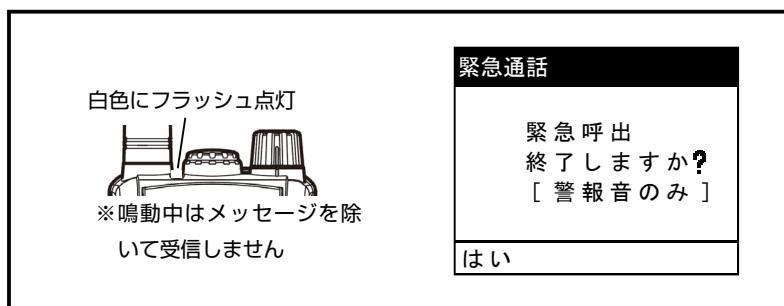
1 : 警報音のみ

周囲の人に注意喚起するため本機のスピーカーから警報音「ピロロッピロロッ…」を鳴らします。

送信はしません。

※警報音の音量は「警報音量 (内部)」または「警報音量 (外部)」(P.76) で設定できます。

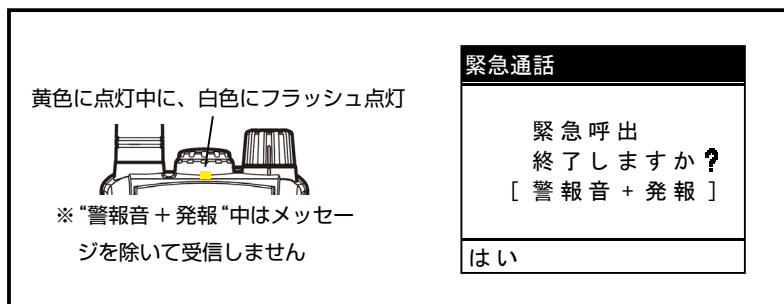
警報音鳴動中のランプとディスプレイ表示



2 : 警報音 + 発報

周囲の人に注意喚起するため本機のスピーカーから警報音「ピロロッピロロッ…」を鳴らすと同時に、お申し込み時に指定のあったグループへ警報音を送信します。

警報音 + 発報中のランプとディスプレイ表示



6. 便利な機能(セットモード操作)

3 : 発報のみ

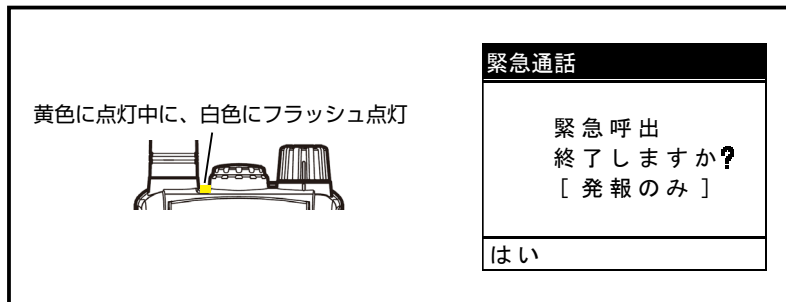
お申し込み時に指定のあったグループへ、警報音を送信します。

※ 本機のスピーカーから警報音は鳴りません。

※ 通話設定 (P.69) で「交互通話」を選択中は、発報中に相手の声は受信しません。

「同時通話」を選択中は、受信するとその音声を出力します。

発報中のランプとディスプレイ表示



4 : 音声送信

お申し込み時に指定のあったグループへ、本機のマイクが拾う周囲の音を送信します。

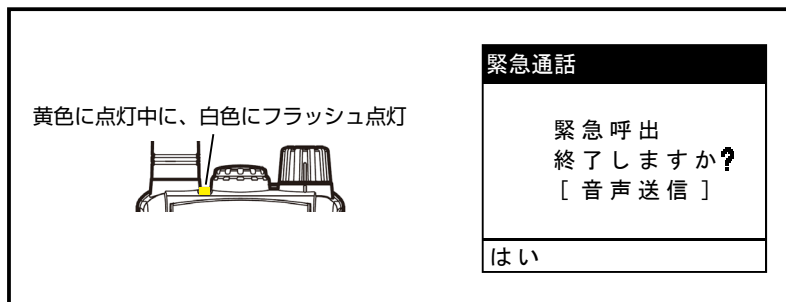
使用者が PTT キーを押し続けられない、声を出せないなどの状態でも、周辺の状況を音で知らせることができます。

※ 「音声送信」はスピーカーマイク装着中はご使用になれません。詳細は P.16 をお読みください。

※ 通話設定 (P.69) で「交互通話」を選択中は、音声送信中に相手の声は受信しません。

「同時通話」を選択中は、受信するとその音声を出力します。

音声送信中のランプとディスプレイ表示



6. 便利な機能(セットモード操作)

設定の組み合わせについて

緊急動作設定は以上の 4 種類です。これらの一つ、もしくは複数組み合わせで設定できます。

一つの動作の種類につき、動作時間を 1 ～ 60 秒の間で設定します。

動作させたい呼出を 1 秒以上に設定することで有効になります。すべてオフだと緊急動作しません。

以下に設定例と、その時の動作を示します。

例 1) 緊急動作を 1 つ設定している場合

種類	設定
警報音のみ	オフ
警報音+発報	30秒
発報のみ	オフ
音声送信	オフ



緊急動作を 1 つ設定している場合は、設定時間に
関係なく、後述の呼び出し終了操作をするまで動作
し続けます。

例 2) 緊急動作を 2 つ設定している場合

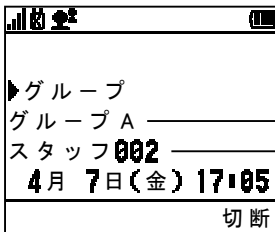
種類	設定
警報音のみ	オフ
警報音+発報	30秒
発報のみ	オフ
音声送信	30秒



緊急動作を 2 つ設定している場合は、上から順に
「警報音 + 発報」を 30 秒間続けて、次に「音声
送信」を 30 秒間続けます。この動作を後述の呼
び出し終了操作をするまで継続します。

呼出を受けるには

お申し込み時に緊急呼出先に指定されたグループからの緊急呼出があった場合、自動的に受信します。緊急呼出を受けると以下のような画面が表示されます。



緊急呼出先に指定されたグループ
発呼者

6. 便利な機能(セットモード操作)

呼出を終わるには

緊急呼出は“PTT”キー、または“機能”キーを押す、もしくは電源を切ることで終了することができます。終了操作をするまでの間、緊急呼出動作を継続します。



参考

短縮キーに緊急呼出機能が割り当てられている場合は、短縮キーを長押しした場合でも緊急呼出動作を終了することができます。

緊急呼出では連続送信時間制限 (P.66) は動作しません。

事前に意図する動作をするか確認することをおすすめします。



注意

相手が通話できない状態(話し中、電源オフ、圏外…)では緊急呼び出しは伝わりません。

本機能は回線状況、周囲の環境などによっても、通信できないことがあります。

高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。緊急呼び出しできなかったことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 緊急速報機能 (P.77)

セットモードの動作 SIM 設定 (P.78) が「au SIM」のみ動作します。

KDDI が提供する地震、津波、災害避難の各緊急速報を受信する機能です。

緊急速報を受信すると「ピッピッピッ」と警報が鳴り、ディスプレイにその内容が表示されます。

※待ち受け時のみ受信でき、通話中や会議室入室中は受信しません。また、地震、津波、

災害避難情報以外の放送(訓練放送等)は受信しません。

※警報音は音量設定に関わらず最大音量で鳴ります。ただし、イヤホンを使用している場合は「ビープ音量」(P.70)に従います。オフに設定されていてもビープ音量:1(小)で鳴ります。

緊急速報
地震情報 地震が発生しました。 身を守る行動をとってください。
戻る

緊急速報
津波情報 津波が発生しました。 高台に避難してください。
戻る

緊急速報
災害避難情報 安全な場所に避難してください。
戻る

6. 便利な機能(セットモード操作)

■ VOX 動作設定 (P.65)

イヤホンマイクかヘッドセットが必要です。内部マイクやスピーカーマイク使用時は動作しません。

「PTT」キーを押して通話する代わりに、「マイクに入力された声」に反応して自動的に通話を開始する機能です。話しかけると自動的に送信し、話し終わると送信を停止します。

VOX 動作中に「切断」して通話を終えた場合、切断してから 10 秒間は VOX が動作しません。

VOX 動作設定

オフ……………VOX 動作を使用しない時。

送信終了時 PTT キー …話しかけると送信します。「PTT」キーを押すと送信を終了します。

※息継ぎなどで通話が途切れないよう、自身の操作によって送信を停止したいときに便利です。

送信開始時 PTT キー …「PTT」キーを押すと送信します。話し終わると送信を停止します。

※頭切れや、咳払い等での誤送信を防げます。

通常 VOX 動作 ……………話しかけると送信します。話し終わると自動で送信を停止します。

※「オフ」以外に設定すると「ダイレクトコール」(P.50) は動作しません。また、「送信終了時 PTT キー」や、「通常 VOX 動作」に設定すると、PTT キーによる送信はできなくなります。

※「PTT ホールド」(P.64) をオンにしていると、VOX が正しく動作しません。オフに戻してお使いください。



PTT ホールドとは、話し始めと終わりに「PTT」キーを押すだけで通話できるようにする機能です。通話中「PTT」キーを押し続けるのがわずらわしい時にご使用ください。PTT ロック機能がない別売りのマイク類をお使いの時はロックの代わりに使えます。

6. 便利な機能(セットモード操作)

■ 通話設定 (P.69)

外部接続なし・外部接続あり

本機単体でご使用になる場合(外部接続なし)と別売のオプション品を装着してご使用になる場合(外部接続あり)のそれぞれで、交互通話 / 同時通話 / エコー軽減を設定できます。

ご使用環境に合わせて設定してください。

- 「交互通話」は一般の無線機のように自分と相手が交互に話す通話です。

設定すると「PTT」キーを押している間、**受信音がミュート(消音)**されます。

(エコーやハウリングは発生しません。)

- 「同時通話」は電話と同じように自分と相手が同時に話すことができる通話です。

環境によってはエコーやハウリングが発生し相手の声が聴き取りづらいことがあります。

エコー・ハウリング回避の為、イヤホンマイクやヘッドセットを装着してご使用ください。

※多人数、かつ工事現場等の騒音が大きいところで「同時通話」すると、マイクが騒音を拾って、会話が聴こえづらいことがあります。

- 「エコー軽減」は「同時通話」と同じように自分と相手が同時に話すことができる通話ですが「PTT」キーを押すなど自分が送信しているとき受信音量の上限を制限することでエコーやハウリングを回避・軽減します。(なくなる訳ではありません。)

※「エコー軽減」が実用になる環境は限られます。より確実な同時通話が必要な場合は、別売のイヤホンマイク、またはヘッドセットをお求めの上、「同時通話」を選択ください。

※受信音量の上限は後述する「内部軽減音量レベル」「外部軽減音量レベル」で変更できます。

ご使用環境に合わせて、以下のように設定することを推奨します。

ご使用環境		推奨設定
外部接続なし	同時通話が不要	交互通話
	同時通話が必要	エコー軽減

ご使用環境		推奨設定(接続するオプション品によって変わります)		
		イヤホンマイク	ヘッドセット	スピーカーマイク
外部接続あり	同時通話が不要	交互通話		
	同時通話が必要	同時通話	同時通話	エコー軽減

6. 便利な機能(セットモード操作)

内部軽減音量レベル・外部軽減音量レベル

前述の「外部接続なし」または「外部接続あり」で「エコー軽減」設定時に有効になり、送信中の受信音量の上限を制限します。

「内部軽減音量レベル」は本機単体でご使用の際に反映され、「外部軽減音量レベル」はオプション品を装着してご使用の際に反映されます。

設定値：0～32

重要・軽減音量レベルの目安

声が反響しやすい室内でご使用の場合：“12”以下

声が反響しにくい室内、または屋外でご使用の場合：“15”以下

※軽減音量レベルが小さいほど、ハウリングやエコーが発生しにくくなりますが、受信音量も低下します。調整の結果、受信音が小さくて聴こえづらい場合は、別売のイヤホンマイク、またはヘッドセットをお求めください。

※後述のセットモード「固定音量レベル」(P.75)の設定に関わらず、軽減音量レベルが優先されます。また、軽減音量レベルと比べて、「最大音量レベル」(P.75)の方が小さい値の時はそちらが優先されます。

- ・自分が「交互通話」を設定していても、通話相手の中に「同時通話」に設定している端末が存在すると、ハウリングやエコーが発生する場合があります。その場合は、全ての端末を「交互通話」、または上記の軽減音量レベルの目安を参考に「エコー軽減」に設定してください。



参考

同時通話やエコー軽減を選択中は、ハウリング・エコー軽減のため、ノイズキャンセル(P.65)、エコーキャンセル(P.65)を初期値のオンでご使用いただくことを推奨します。

7. セットモード

■セットモード

使用者の用途に合わせて本機の動作をカスタマイズしたり、メッセージの送信や緊急呼出を行うのがセットモードです。操作方法は P.62 でご説明します。

セットモードは全ての項目を設定できる「セットモード標準」(以下、“標準”)と、限られた項目のみ設定できる「セットモード簡易」(以下、“簡易”)があります。

まず標準で詳細な設定を行い、そのあとよく使う項目だけの簡易に切り替えておくを使い勝手が良くなります。

- 簡易と標準ではセットモードに表示される番号が異なります。以降、簡易のセットモード番号は青色、標準は黒色でご説明します。
- セットモードは送信中や受信中、会議室入室中に操作することはできません。



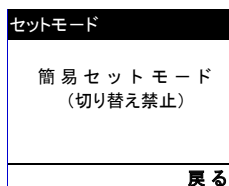
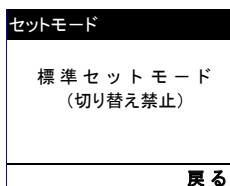
参考

本機は予め無線機管理者が指定した内容を、使用者が誤操作などで変更できなくする機能があります。お申し込み時に以下の指定があった場合は、セットモードが切り替えられなかったり、表示されなかったりします。

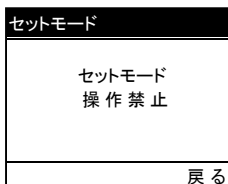
◇ 指定された内容

- 「セットモード “標準” から切り替え禁止」されると “簡易” は表示されません。
- 「セットモード “簡易” から切り替え禁止」されると “標準” は表示されません。

※切り替え操作をすると、以下のどちらかの画面が表示されます。



- 「セットモード “禁止”」されると下記のように表示され、“簡易” “標準” 問わず、セットモードが表示されません。



契約内容に関するお問い合わせはご契約時の販売店までお問い合わせください。

7. セットモード

■ セットモード一覧

セットモード“標準”では全項目が表示され、“簡易”では実線の項目のみ表示されます。

1 1 メッセージ送信

- 1 1 全員に送信
- 2 2 グループに送信
- 3 3 個別に送信

2 2 緊急呼出

3 3 機器設定

- 1 1 送信設定
 - 1 1 内部マイク感度
 - 2 2 外部マイク感度
 - 3 緊急時マイク感度
 - 4 PTT ホールド
 - 5 コールバック
 - 6 VOX 動作設定
 - 7 VOX 動作レベル
 - 8 3 ノイズキャンセル
 - 9 エコーキャンセル
 - 10 連続送信時間制限
 - 11 ダイレクトコール
 - 12 送信禁止
 - 13 個別呼出切替
 - 14 グループ呼出切替
 - 15 全員呼出切替
- 2 受信設定
 - 1 録音動作設定
 - 2 メッセージ受信禁止
- 3 2 通話設定
 - 1 1 外部接続なし
 - 2 2 外部接続あり
 - 3 3 内部軽減音量レベル
 - 4 4 外部軽減音量レベル

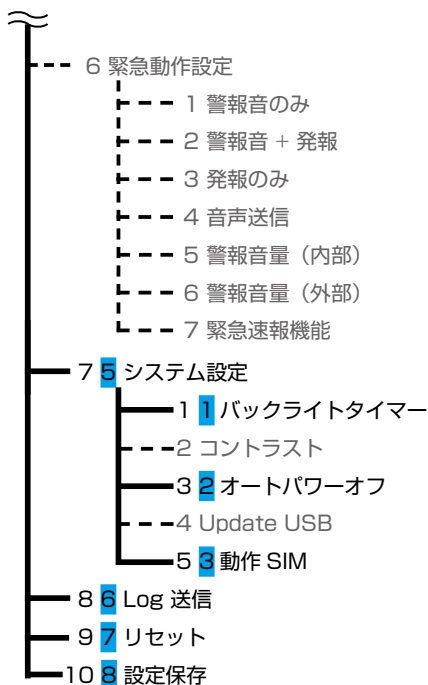
4 3 通知 / 警告設定

- 1 1 ビープ音量
- 2 2 ベル機能
- 3 ベルの音色
- 4 3 音声ガイダンス
- 5 4 音声ガイド音量
- 6 減電池警告
- 7 5 イヤホン断線検知
- 8 接続通知
- 9 失敗通知
- 10 6 PTT ビープ
- 11 7 エンドビー
- 12 通信圏外通知音

5 4 各種動作設定

- 1 1 短縮キー動作
- 2 2 外部音量設定
- 3 3 音量の調整方法
- 4 4 固定音量レベル
- 5 最大音量レベル
- 6 最小音量レベル

7. セットモード



4 機器情報

■ 変更と保存について

最後に「設定保存 (P.79)」操作をしないと、ここで操作した変更内容を保持しません。恒久的な変更と一時的な変更を区別できるようにするためです。以下、「リセット (P.79)」と合わせて説明します。ご契約時に禁止指定されているときは、リセット機能は使えません。

- リセットはセットモード内の設定値を工場出荷時の状態に戻す機能です。ただし、工場出荷後に設定内容の変更を申し込んだ場合は、その状態まで戻ります。
- 新しい機能をお試しになる時などは、思うように動くことが確認できるまで設定保存しない事をお勧めします。設定保存しなかった変更は電源を切ると元の値に戻ります。
- 設定保存はカスタマイズしたセットモードの値を保存して、次に電源を入れてもその状態を保持させるものです。好みの状態になったときは必ず設定保存してください。

7. セットモード

- 設定保存は上書きできます。使い勝手が良くなるまで、何度でも設定保存してください。
- 設定保存しても以下の項目は保存されません。また、リセットしても復元しません。

内部軽減音量レベル

外部軽減音量レベル

■ セットモード操作方法

- ① 待受画面で「機能」キーを押してセットモードを開きます。

“簡易”か“標準”が表示されます。

セットモード 簡易			
1	メッセージ送信		
2	緊急呼出		
3	機器設定		
4	機器情報		
設定	▽ △	戻る	

セットモード 標準			
1	メッセージ送信		
2	緊急呼出		
3	機器設定		
4	機器情報		
設定	▽ △	戻る	

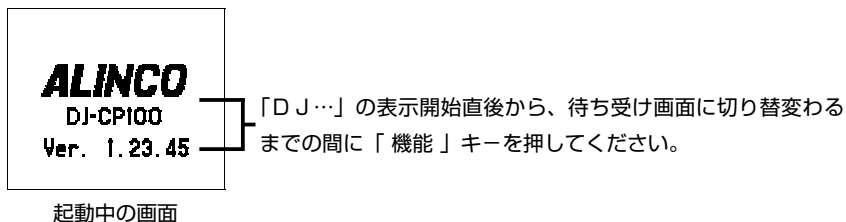
- ② 「▽」「△」キーで設定したい項目に合わせて「機能」キーで項目の選択をします。
- ③ 設定値を選択した状態で「機能」キーを押すと設定を完了します。
- ④ 「戻る」キーを押すと前の画面に戻ります。
- ⑤ 「PTT」キーを押すと、設定画面で設定値を選択しているときは選択中の設定値を保存して待ち受け画面に戻ります。それ以外の場合に押すと、待受画面に戻ります。

7. セットモード

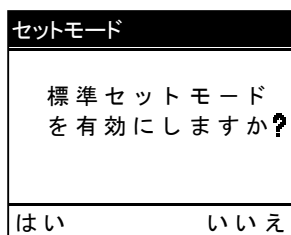
■ “簡易” と “標準” の切替方法

電源を入れます。

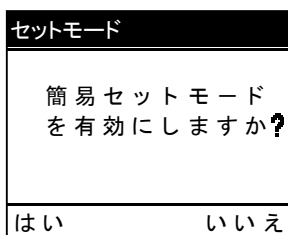
画面に「ALINCO」に続いて「DJ-CP100」と表示され始めたら、すぐに「機能」キーを押します。



現在のセットモード(“簡易”または“標準”)によって、下記のどちらかの画面が表示されます。



変更前が“簡易”だった場合



変更前が“標準”だった場合

再度「機能」キーを押すとセットモードの切替が完了し、待ち受け画面に切り替わります。

※再度セットモードを切り替えるときは、一度電源を切ってから上記操作を行います。

※本画面を表示中に自動的にファームウェア更新画面(P.22)に切り替わる場合があります。

その場合はファームウェアの更新が優先され、切り替えできません。

更新が終わり上記の起動画面表示中に、もう一度同じ操作をしてください。

7. セットモード

■ セットモード項目説明

● 1 1 メッセージ送信

詳細は前述の「メッセージを送る」(P.39) をご参照ください。

● 2 2 緊急呼出

詳細は前述の「緊急呼出」(P.51) をご参照ください。

緊急通話	
緊急呼出 しますか?	
はい	いいえ

緊急通話	
緊急呼出 終了しますか?	
はい	いいえ

● 3 3 機器設定

1 1 送信設定

- 1 1 内部マイク感度
- 2 2 外部マイク感度
- 3 緊急時マイク感度

内部マイク感度 / 外部マイク感度 / 緊急時マイク感度：

- ・本体内部マイク、外部マイク、緊急時マイク感度を変更できます。
- ・緊急時マイク感度は緊急呼出（音声送信）中のマイク感度です。内部マイク感度や外部マイク感度とは別に設定できます。

※感度を高くすると、小さな声で話したときに相手に大きな声で伝わります。声が歪むと言われるときは低め、小さいと言われるときは高めに設定します。

初期値 ：6

設定範囲共通：1(低)/2/3/4/5/6/7/8/9/10(高)

4 PTT ホールド

PTT キーを一度押すと送信状態を保持、もう一度押すと送信をやめます。

PTT キーを押し続けなくてよい「ハンズフリー」ができます。

初期値 ：オフ

設定範囲：オフ / オン

7. セットモード

● 3 3 機器設定

1 1 送信設定

5 コールバック

送信中に自分が話している声を、装着中のイヤホンまたはヘッドセットから鳴らして、送信できているかどうか、耳で確認できます。コールバックの音量はボリュームとは連動せず、変更もできません。

※本機単体で、またはスピーカーマイクご使用時にオンにしても動作しません。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / オン

6 VOX 動作設定 (P. 56)

VOX の開始終了条件の選択です。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / 送信開始時 PTT キー / 送信終了時 PTT キー / 通常 VOX 動作

7 VOX 動作レベル

VOX の動作音量の選択です。

初期値 : 4

設定範囲: 1 (大声で動作) / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 (小声で動作)

8 3 ノイズキャンセル

9 エコーキャンセル

ノイズキャンセル / エコーキャンセル:

本機にプログラムされた音質補正機能です。

- ・ノイズキャンセルはマイクが拾う環境騒音を低減してから送信します。
- ・エコーキャンセルは同時通話時、スピーカーの受信音声が入って起きるエコーやハウリングを低減します。SP/MIC 端子にオプション品 (別売) 装着中は本設定に関わらず、エコーキャンセルは動きません。

どちらも使用する場所、騒音の質などの条件から効果が感じられない場合があります。

初期値: オン

設定値: オフ / オン

7. セットモード

● 3 3 機器設定

1 1 送信設定

10 連続送信時間制限

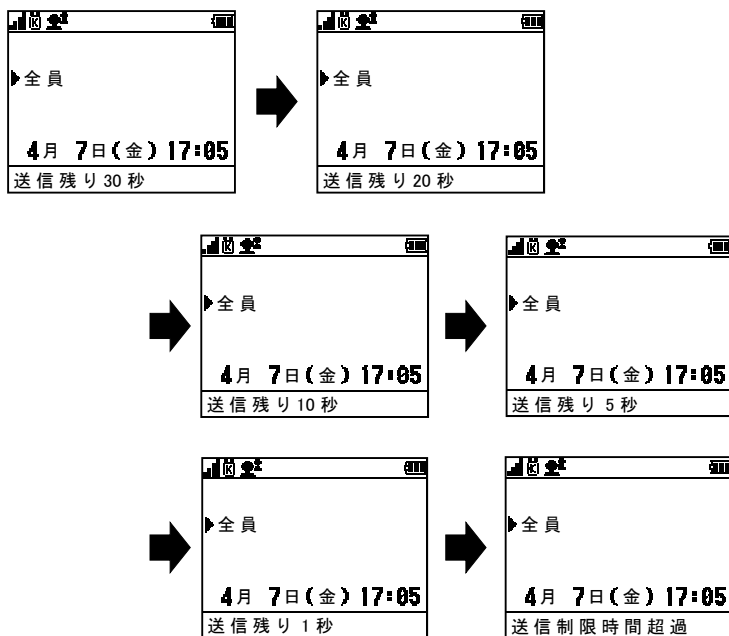
設定した制限時間を超えると送信を止める機能です。誤送信、長話を抑えることができます。この機能は、通話モード「全員」、「グループ」、「個別」の通話時間制限 10 分とは異なる機能です。

- 会議室以外の音声通信で動作します。
- 制限時間の 30 秒前及び 5 秒前には警告音が鳴ります。
- 30 秒・20 秒・10 秒・10 秒未満は 1 秒ごとにカウントダウンを表示します。

※タイムアウト・タイマーとも呼ばれる、簡易無線機では一般的な機能です。

初期値：オフ

設定値：オフ / 30 秒 / 60 秒 / 90 秒 / 120 秒 / 150 秒 / 180 秒 /
210 秒 / 240 秒 / 270 秒 / 300 秒



7. セットモード

● 3 3 機器設定

1 1 送信設定

1 1 ダイレクトコール

本機側面の短縮キーを押すだけで任意の相手（全員・グループ・個別のいずれか）を素早く呼び出す機能です。**あらかじめ短縮キー動作（P.50）に「ダイレクトコール」を割り当てる必要があります。**

※スピーカーマイク使用中に本機能を使うときは、短縮キーを押して本体側のマイクに向けて話してください。スピーカーマイクに向けて話しても声が伝わりません。

初期値 ： 全員

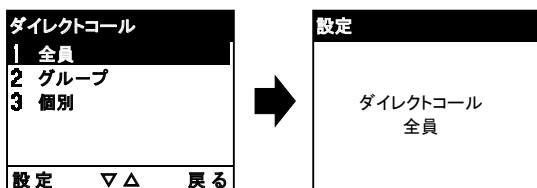
設定範囲： 全員 / 任意のグループ 1 つ / 任意の個別 1 人

● 通話先の設定方法

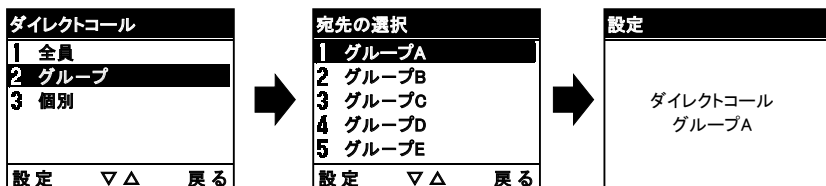
以下に呼び出す相手の選択方法をご説明します。

「▽」「△」キーで登録する相手を選択して、「機能」キーで決定します。

全員を呼び出したい場合



特定のグループを呼び出したい場合



7. セットモード

● 3 3 機器設定

1 1 送信設定

個人を呼び出したい場合



12 送信禁止

送信を禁止して受信専用にする機能です。

お申し込み時に「送信禁止」が指定されていると、設定変更はできません。設定内容の確認だけができます。

※無線用語で「受令機」と呼ばれる、受信専用端末として使う設定です。

初期値：送信許可

設定値：送信許可 / 送信禁止

13

個別呼出切替

14

グループ呼出切替

15

全員呼出切替

個別呼出切替 / グループ呼出切替 / 全員呼出切替：

待ち受け中のメンバーと異なる相手から呼出されると、通話後にその発呼者を一定時間、呼出先として保持することができます。

個別呼出切替 / グループ呼出切替 / 全員呼出切替で、各通話モードごとに保持時間を設定できます。

※呼出切替中は設定した時間が経過するまで、ランプが緑色に点滅し続けます。

完全切替を設定して呼出されると、元の通話モードには戻りません。

初期値：5 秒

設定値：オフ / 5 秒 / 10 秒 / 30 秒 / 60 秒 / 完全切替

7. セットモード

● 3 3 機器設定

2 受信設定

1 録音動作設定

通話内容を録音する機能です。会議室モードでは録音されません。

※再生方法は（P.42）「通話履歴の録音再生」をご覧ください。

初期値：オフ

設定値：オフ / 全員通信のみ / グループ通信 / 全員+グループ /
個別通信のみ / 全員 + 個別 / グループ + 個別 / 全ての通信

2 メッセージ受信禁止

メッセージ受信の禁止 / 許可を設定します。

初期値：許可

設定値：受信許可 / 受信禁止

3 2 通話設定

1 1 外部接続なし

2 2 外部接続あり

外部接続なし / 外部接続あり：

本機単体でご使用になる場合（外部接続なし）と、別売のオプション品を SP / MIC 端子に装着してご使用になる場合（外部接続あり）のそれぞれに、交互通話 / 同時通話 / エコー軽減を設定できます。

※詳細は P.57 をご覧ください。

初期値：交互通話

設定範囲：交互通話 / 同時通話 / エコー軽減

7. セットモード

● 3 3 機器設定

3 2 通話設定

3 3 内部軽減音量レベル

4 4 外部軽減音量レベル

内部軽減音量レベル / 外部軽減音量レベル :

前ページの「 外部接続なし 」または「 外部接続あり 」でエコー軽減を選択した場合に、同時通話中のスピーカー出力の上限を制限する機能です。

※詳細は P.57 をご覧ください。

初期値 : 15

設定値 : 0 ~ 32

4 2 通知 / 警告設定

1 1 ビープ音量

キーを操作したときなどに鳴る「ピッ」や「ブブブッ」といった短い音の音量を設定します。**オフにすると、ベル音や失敗通知音も鳴りません。**

初期値 : ポリューム連動

設定範囲 : オフ / 1 (小) / 2 / 3 / 4 (大) / ポリューム連動

2 2 ベル機能

着信をベル音、画面のアイコン点滅、ランプの青点滅でお知らせします。

- 着信があるとベル音が鳴り、ベルアイコン「」が点滅します。
- 応答しないと、次に何か操作をするまでベルアイコンと、約 5 秒に一回青ランプが点滅します。
- 通話が切断されると、またベル機能が有効になり、受信するとベル音が鳴ります。

※ベルの音量はビープ音量と連動します。独立して調整できません。

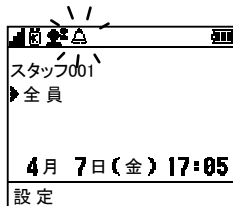
初期値 : オフ

設定範囲 : オフ / オン

7. セットモード

● 3 3 機器設定

4 3 通知 / 警告設定



3 ベルの音色

ベル機能のベルの音色設定です。

※ベルの音量はピープ音量と連動します。独立して調整できません。

初期値 : ピロリロリロリ ♪

設定範囲: ピロリロリロリ ♪ / プルルップルル ♪ / ピピピピピ ♪

4 3 音声ガイダンス

音声ガイダンスの動作条件 (P.49) の選択です。

初期値 : 両方オン

設定範囲: オフ / 音量案内のみ / 状態通知のみ / 両方オン

5 4 音声ガイド音量

音声ガイダンスの音量の設定です。

初期値 : 2

設定範囲: 1(小)/2/3/4(大)/ ボリューム連動

6 減電池警告

電池の残量が少なくなると、ピープ音と音声ガイダンスでお知らせする機能です。電池残量表示が空になったタイミングから、設定した時間間隔でお知らせします。

※減電池警告はピープ音と音声ガイダンスの設定をオフにすると鳴りません。

初期値 : 1 回のみ

設定範囲: オフ / 1 回のみ / 30 秒ごと / 1 分ごと / 2 分ごと / 5 分ごと / 10 分ごと

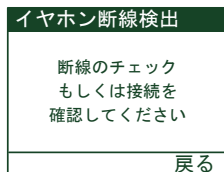
7. セットモード

● 3 3 機器設定

4 3 通知 / 警告設定

7 5 イヤホン断線検知

電源を入れたときにイヤホンが断線していた場合、本体上部のランプが紫に点滅し、ディスプレイに以下のように表示されます。



この表示は5秒経過すると消えますが、「戻る」キーを押すとすぐに消えます。

表示中は「戻る」キー以外の操作を受け付けません。

一度断線を検出すると、電源を切るまでランプが紫色に点滅し続けます。

イヤホンがしっかり本体にねじ込まれているか、ご確認ください。

会話中に音声途切れる等の症状がある場合は、イヤホンを交換してください。

※イヤホンの交換は電源を切ってから行ってください。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / オン

8 接続通知

通話やメッセージの受信時に「ブッ」とビープ音を鳴らして知らせる機能です。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / オン

9 失敗通知

通話モード「個別」で相手が電源を入れていないか、電波状況が悪いところにいるなどの理由でつながらなかった場合や、電波が不安定な状態で、メッセージの送信に失敗したときに「ブブブッ」とビープ音を鳴らして知らせる機能です。

※失敗通知はビープ音（P.70）をオフにすると鳴りません。

初期値 : オン

設定範囲: オフ / オン

7. セットモード

● 3 3 機器設定

4 3 通知 / 警告設定

10 6 PTT ビープ

通信が確立していない状態で「PTT」キーを押し、話し始められる状態になると「ビピッ」音でお知らせします。ランプの点灯を見なくても、通話できる事が分かります。ランプが緑色に点灯して通信が確立している間は「ビピッ」音は鳴りません。

※ PTT ビープの音量は「ビープ音量」(P.70) に従います。ただし、“オフ”に設定している場合は、ビープ音量：2 の音量で出力します。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / オン

11 7 エンドビー

「PTT」キーを離れたとき受信相手に「ピッ」音で合図します。

※送信側でオン / オフする機能です。受信側だけがオフにしても音は消えません。

※エンドビーの音量は「ビープ音量」(P.70) に従います。ただし、“オフ”に設定している場合は、ビープ音量：2 の音量で出力します。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / オン

12 通信圏外通知音

携帯電話のサービスエリアから外れて、通信できない状態になったことを知らせる機能です。基地局サービスに接続できない状態が 15 秒続くと警報音が鳴ります。この状態が続くと 15 秒毎に警報音が鳴ります。

初期値 : オン

設定範囲: オフ / オン

7. セットモード

● 3 3 機器設定

5 4 各種動作設定

1 1 短縮キー動作

「短縮」キーに割り当てる機能の設定です。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / 緊急呼出 / ダイレクトコール / 音量固定・連動 /

最終録音再生 / ミュート

- 緊急呼出: 「短縮」キーを押すと「緊急動作設定」(P.75) で指定された動作をします。
- ダイレクトコール (P.67): 「短縮」キーを押すと設定した相手とすばやく通話できます。
- 音量固定・連動: 「短縮」キーを押すことで、セットモードの「固定音量レベル」(P.75) で設定された音量と音量ツマミで合わせた音量を切り替えます。
- 最終録音再生: 最後に録音された通話を再生します。
- ミュート: 音声受信中に「短縮」キーを長押しすると「ピッ」という音が鳴り、受信音を一時的にミュートします。同じ操作を繰り返すか、通信が切断されると、「ピピッ」と音が鳴り元の音量に戻ります。ミュート中に「PTT」キーを押すと「ブブッ」と音が鳴り送信ができません。

2 2 外部音量設定

SP/MIC 端子に装着したオプション品 (別売) から出力する音量を 3 段階で選べます。

初期値 : 音量中

設定範囲: 音量小 / 音量中 / 音量大

3 3 音量の調整方法

音量を音量ツマミで変更するのか、固定するのか選べる機能です。「設定値に固定」を設定中はランプが水色点滅します。固定する音量レベルは次の項目で設定します。

初期値 : ボリューム連動

設定範囲: ボリューム連動 / 設定値に固定

7. セットモード

● 3 3 機器設定

5 4 各種動作設定

4 4 固定音量レベル

前述の「設定値に固定」の音量レベルの設定です。

初期値 : 16

設定範囲 : 0 ~ 32

5 最大音量レベル

音量ツマミの位置に関係なく音量の上限を決める機能です。

初期値 : 32

設定範囲 : 0 ~ 32

6 最小音量レベル

音量ツマミの位置に関係なく音量の下限を決める機能です。

初期値 : 0

設定範囲 : 0 ~ 32

6 緊急動作設定

1 警報音のみ (P.52)

緊急呼出の警報音を何秒動作させるかの設定です。

初期値 : オフ

設定範囲 : オフ / 1 ~ 60 秒

2 警報音 + 発報 (P.52)

緊急呼出の警報音 + 発報を何秒動作させるかの設定です。

初期値 : 30 秒

設定範囲 : オフ / 1 ~ 60 秒

7. セットモード

● 3 3 機器設定

6 緊急動作設定

3 発報のみ (P.53)

緊急呼出の発報のみを何秒動作させるかの設定です。

初期値 : オフ

設定範囲 : オフ / 1 ~ 60 秒

4 音声送信 (P.53)

緊急呼出の警報音を何秒動作させるかの設定です。

初期値 : オフ

設定範囲 : オフ / 1 ~ 60 秒

5 警報音量 (内部)

内部スピーカーの警報音量の設定です。

初期値 : ボリューム連動

設定範囲 : 1 (小) / 2 / 3 / 4 (大) / ビープ音量と同じ / ボリューム連動

6 警報音量 (外部)

SP/MIC 端子に装着したオプション (別売) から出力する警報音量の設定です。

初期値 : ボリューム連動

設定範囲 : 1 (小) / 2 / 3 / 4 (大・イヤホン使用注意) / ビープ音量と同じ /
ボリューム連動

7. セットモード

● 3 3 機器設定

6 緊急動作設定

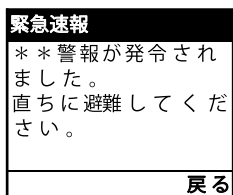
7 緊急速報機能

セットモードの動作 SIM 設定 (P.78) が「au SIM」のとき、KDDI が提供する地震、津波、災害避難の各緊急速報を受信できる設定です。

※詳細は緊急速報機能 (P.55) をご覧ください。

初期値 : オフ

設定範囲 : オフ / オン



7 5 システム設定

1 1 バックライトタイマー

バックライトを何秒後に消灯するかの設定です。時間が長いほど電池を早く消費します。常時点灯は特別な事情が無い限りお勧めしません。

初期値 : 5 秒

設定範囲 : 常時消灯 / 5 秒 / 10 秒 / 30 秒 / 60 秒 / 常時点灯

2 コントラスト

ディスプレイの濃さを変更できます。

初期値 : 8

設定範囲 : 1 ~ 10

7. セットモード

● 3 3 機器設定

7 5 システム設定

3 2 オートパワーオフ

電源の切り忘れを防ぐ機能です。無操作の状態が設定された時間続くと、音声で案内した後、自動的に電源が切れます。

※本機能が働くと、ツマミの位置に関係なく電源が切れます。その状態からご使用になるには、一度ツマミを電源切の位置に合わせてから、電源を入れなおしてください。

初期値 : オフ

設定範囲: オフ / 30 分 / 1 時間 / 2 時間 / 3 時間 / 4 時間 / 5 時間 / 6 時間

4 3 Update USB

保守用の機能で、お客様はお使いになれません。

操作しても説明文が出るだけで何も動作しません。

5 動作 SIM

通信に使用する SIM が選択できます。

動作 SIM 画面で「▽」「△」キーで選択し「機能」キーを押します。

動作 SIM : au/docomo

動作SIM	
1	au
2	docomo
設定 ▽△ 戻る	

シングル SIM 運用のときは、無線機ご購入時に指定された回線名を表示します。

KDDI 回線のときは au、docomo 回線のときは docomo と表示します。

切替には 2 分程度時間がかかります。フリーズしているわけではありませんので、電源を切らずにお待ちください。切替中に電源を切ると、正常に切替されない場合があります。その際は、再度切替ください。

7. セットモード

● 3 3 機器設定

8 6 Log 送信

無線機本体の Log データを送信する機能で、サービスセンターがメンテナンスに使用します。通常使用することはありません。サポート以外の目的では操作しないでください。



9 7 リセット

リセットはセットモード内の設定値を工場出荷時の状態に戻す機能です。ただし、工場出荷後に設定内容の変更を申し込んだ場合は、その状態まで戻ります。

設定画面で機能キーを押して「はい」を選択します。自動で再起動するまで触らないでください。

リセット	
リセットしますか?	
はい	いいえ

10 8 設定保存

設定保存はカスタマイズしたセットモード内の設定値を保存する機能です。

設定画面で機能キーを押して「はい」を選択します。

設定保存	
設定情報を 送信しますか?	
はい	いいえ

● 4 4 機器情報

各種機器情報を表示します。

8. 保守・参考

■ 故障とお考えになる前に

「故障かな？」と思われたら、まず以下の「処置」をお読みください。マイク類や電池類などが原因の不具合も有りますので、必ずアクセサリも点検してください。一番快適なセットモード設定状態を「設定保存」(P.79) しておくと、誤操作をしても簡単に元に戻せます。

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	バッテリーパックが接触不良を起こしている。	端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で拭って取り除く。
	バッテリーが消耗している。	バッテリーを充電する。
ディスプレイに「接続中…」と表示されたまま、接続が完了しない。	電波の状況が不安定。	場所を移動してから通話してみる。または電源を入れなおしてみる。
SP / MIC 端子に接続したオプション品が動作しない。	プラグが根元まで接続されていない。	P.16 を参照し、しっかり接続されているか確認する。
ディスプレイに「イヤホン断線検出」と表示された。	イヤホンが断線しているか、しっかり接続されていない。	イヤホンを他のものと交換してみる。P.16 を参照し、しっかり接続されているか確認する。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	バッテリーパックが消耗している。	バッテリーパックを充電する。
送信ができない。	「PTT」キーが確実に押されていない。	「PTT」キーを押して、ランプが黄色または赤色に点灯することを確認する。
送信しても応答がない。	通話モード「個別」の場合	時間をおいて送信しなおす。
	通話モード「グループ」の場合	
送信ができない。送信すると、表示が点滅したり消えたりする。	バッテリーパックが消耗している。	バッテリーパックを充電する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
	何らかの原因でフリーズしている。	電源を入れなおす。電源が切れない場合は、バッテリーパックを一旦取り外して、再度取り付ける。その後、電源を入れなおす。
表示が異常になっている。	CPU が誤動作している。	電源を入れなおす。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを乾いた布で拭き取る
充電スタンドの赤色ランプが点滅する。	充電スタンドの保護回路が働いている。	バッテリーパック単体で充電する。充電時、無線機の電源を切る。

8. 保守・参考

症状	原因	処置
以前より製品の温度が熱くなることがある。 普段と違う臭いがする	何らかの異常が生じている可能性があります。	使用を中止し、弊社サービスセンターまでお問い合わせください。
バッテリーパックが膨れた。	バッテリーの異常や経年劣化等が考えられます。	
電源が入っているのにディスプレイに何も表示されない。	オートパワーオフ機能が働いた。	一度ツマミを回して電源を切り、電源を入れなおす。

- 自動車やバイクなど比較的速い速度で移動する局との通信や、アンテナが揺れるような状態で使用すると通話が安定しないことがあります。これは電波伝搬上の理由によるもので異常ではありません。
- 無線機の状態に異常があると下記のようなエラー表示が出ます。その際は、点検・修理が必要になりますので、「アフターサービスについて」をご覧くださいの上、販売店または弊社サービスセンターにご相談ください。



- 静電気が溜まりやすい場所や服装でイヤホンやイヤホンマイクを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。ドアノブなどに触れて感じることもあるショックと同じで、漏電のような異常ではありません。

■ メンテナンス

定期的に清掃とメンテナンスをすると長く衛生的にお使いになれます。

● ボディとアンテナ

パソコンやデジタルカメラなどの精密機器の清掃器具は無線機にもお使いになれます。ブラシやブロアーでホコリを払い、除菌用ウエットティッシュ（湿りすぎていたら絞る）で手垢や汚れをふき取り、乾いた布で乾拭きしてください。電池端子部分はきれいな綿棒でぬぐいます。

● 外部マイク類

ケーブルは汗や脂で劣化しやすくなります。湿った布やウエットティッシュで汚れを落として乾拭きします。イヤホンパッドやマイクスポンジは定期的に新品と交換してください。

● リチウムイオンバッテリーは3年をめどにお買い換えください。古いリチウムイオンバッテリーは使用時間が短くなり、内部ショートによる発熱、発火のリスクが高くなります。

● 採用している防水パッキンなどの部品には寿命があります。外郭保護性能の保証期間は同梱の保証書と同じです。外郭保護性能のメンテナンスに関する有償アフターサービスが必要な場合は、お買上げの販売店または弊社にお問い合わせください。

■ アフターサービスについて

● 保証書

保証書は購入店名、購入日の記入（または専用ステッカー貼付けなど）と、記載の製造番号をお確かめの上、大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類を保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

● 保証期間

同梱の保証書に記載されている期間です。正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって無償修理いたします。

● 保証期間が過ぎたら

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。アフターサービスに関するよくあるご質問は「アルインコ 電子 FAQ」をキーワードにネット検索してください。ご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

● 製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修用部品を常備しています。ただし不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後 5 年です。

● 注意事項

改造、分解されたり銘板やラベル類が剥がされた製品は、修理をお断りします。ラベルをはがすと不法無線機の使用として処罰の対象になります。また、銘板を隠すシールや飾り類は修理の際、取り除くことがあります。

● お問い合わせ

・ ご契約の内容、グループ設定の変更、解約に関するもの：

本サービスをご契約頂いた取扱店

・ 操作方法、修理、メンテナンスに関するもの：

アルインコ電子サービスセンター

フリーダイヤル 0120 - 464 - 007

受付時間／ 10:00 ～ 17:00 (土日祝日・休業日、12:00 ～ 13:00 は除く)

E メール：alinco_cloudservice@alinco.co.jp

アルインコ電子サービスセンター

〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 4-4-9 淀屋橋ダイビル 13F

9. オプション一覧

■ オプション一覧

EBP-198	リチウムイオンバッテリーパック (7.2V 2200mAh)
EBP-199	リチウムイオンバッテリーパック (7.2V 3200mAh)
EDC-326R	シングル充電スタンド (連結仕様)
EDC-215	AC アダプター (1 台充電用)
EDC-188	AC アダプター (連結充電用)
EMS-62	P54 相当スピーカーマイク
EMS-71	IP67 相当防水スピーカーマイク (イヤホンジャック無し)
EME-32A	カナル型イヤホンマイク (PTT ロック付)
EME-48A	耳かけ型イヤホンマイク (PTT ロック付)
EME-58	耳かけ式防水プラグイヤホン
EME-60	ツイストコードイヤホン
EME-62A	咽喉マイク
EME-73A	ヘルメット用ヘッドセット
EMS-514	IP67 防水スピーカーマイク
EDH-41	防水仕様 乾電池ケース
EHC-72	ハードケース
EBC-46	ベルトクリップ
EBC-47	ステンレスベルトクリップ
EBC-50	フリーベルトクリップ
EBC-56	ショルダーベルト

次のページで注意事項をご説明します。

9. オプション一覧

【ご注意】

- スピーカーマイクでは VOX 機能、PTT ホールド、コールバックは使えません。
- ヘルメット用ヘッドセットはバイク用及び特殊形状のヘルメットには使えません。
- オプション一覧に記載されているもの以外にも使用できるマイク類がありますが、レジャーやホビーユーザー向けの消耗品です。業務でお使いのときは、必ず P.84 に記載の業務仕様をお求めください。頑丈なうえ、故障しても修理ができます。
- EBP-198、EBP-199 は無線機に正しく装着された場合にのみ IP67 相当の耐塵防水保護が機能します。故障の原因に直結するので、単独の状態では絶対に水に濡らさないでください。
- オプション一覧に記載の業務用イヤホンマイクは「 PTT 」キーを送信状態に固定できるロックスイッチが付いています。PTT ロックスイッチが付いていないマイクアクセサリをお使いの時はセットモードの「送信設定」にある「 PTT ホールド 」をオンにすると「 PTT 」キーを一度押して送信、もう一度押して送信をやめるハンズフリー運用ができます。

10. 定格

■ 一般仕様

外郭保護等級	IP64・IP65・IP66・IP67 (アンテナ、バッテリー装着時)
定格電圧	7.2V
外形寸法	約 55.8(W)x98.5(H)x32.7(D)mm (EBP-198 装着時) 約 55.8(W)x98.5(H)x40.9(D)mm (EBP-199 装着時)
質量	約 244g (EBP-198 装着時)
(付属アンテナ装着時)	約 266g (EBP-199 装着時)
使用温度範囲	-10 ~ +60℃
音声出力	内部スピーカー 900mW 以上 (8 Ω 10% 歪) 外部スピーカー 300mW 以上 (8 Ω 10% 歪)
運用時間の目安	28 時間 ※送信 5 分、受信 5 分、待ち受け 90 分 EBP-198(2200mAh) 装着時

11. 付録

■ 設定初期値一覧表

申し込み時に要望がなかった場合の設定値は以下の通りです。

1 1 送信設定		
1 1	内部マイク感度	6
2 2	外部マイク感度	6
3	緊急時マイク感度	6
4	PTT ホールド	オフ
5	コールバック	オフ
6	VOX 動作設定	オフ
7	VOX 動作レベル	4
8 3	ノイズキャンセル	オン
9	エコーキャンセル	オン
10	連続送信時間制限	オフ
11	ダイレクトコール	全員
12	送信禁止	送信許可
13	個別呼出切替	5 秒
14	グループ呼出切替	5 秒
15	全員呼出切替	5 秒

2 受信設定		
1	録音動作設定	オフ
2	メッセージ受信禁止	受信許可

3 2 通話設定		
1 1	外部接続なし	交互通話
2 2	外部接続あり	交互通話
3 3	内部軽減音量レベル	15
4 4	外部軽減音量レベル	15

4 3 通知 / 警告設定		
1 1	ビーブ音量	ボリューム連動
2 2	ベル機能	オフ
3	ベルの音色	ピロリロリロリ ♪
4 3	音声ガイダンス	両方オン
5 4	音声ガイド音量	2
6	減電池警告	1 回のみ
7 5	イヤホン断線検知	オフ

4 3 通知 / 警告設定		
8	接続通知	オフ
9	失敗通知	オン
10 6	PTT ビープ	オフ
11 7	エンドビー	オフ
12	通信圏外通知音	オン

5 4 各種動作設定		
1 1	短縮キー動作	オフ
2 2	外部音量設定	音量中
3 3	音量の調整方法	ボリューム連動
4 4	固定音量レベル	16
5	最大音量レベル	32
6	最小音量レベル	0

6 緊急動作設定		
1	警報音のみ	オフ
2	警報音 + 発報	30 秒
3	発報のみ	オフ
4	音声送信	オフ
5	警報音量 (内部)	ボリューム連動
6	警報音量 (外部)	ボリューム連動
7	緊急速報機能	オフ

7 5 システム設定		
1 1	バックライトタイマー	5 秒
2	コントラスト	8
3 2	オートパワーオフ	オフ
4	Update USB	-
5 3	動作 SIM	-



青色が付いている項目は簡易セットモードで設定できる項目です。

- 仕様・定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。
- 誤りや技術変更などに伴い、記述を予告なく変更する場合があります。



アルインコ株式会社 電子事業部

東京支店	〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階	TEL.03-3278-5888
名古屋支店	〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目10番19号サンエイビル4階	TEL.052-212-0541
大阪支店	〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階	TEL.06-7636-2361
福岡営業所	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階	TEL.092-473-8034

Copyright Alinco, Inc.
PS1077
FNFF-NH